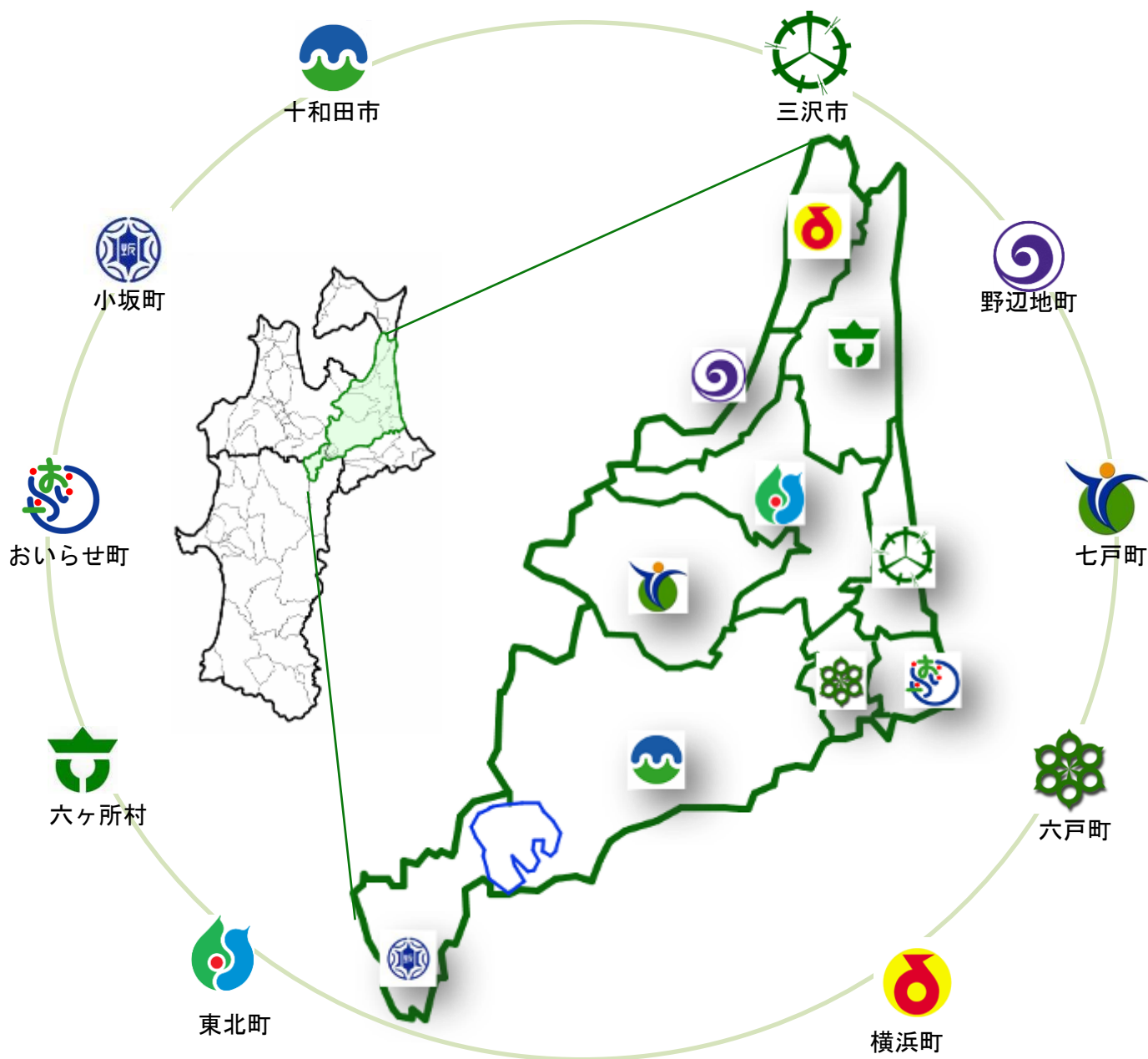


# 上十三・十和田湖広域定住自立圏

## 第2次共生ビジョン

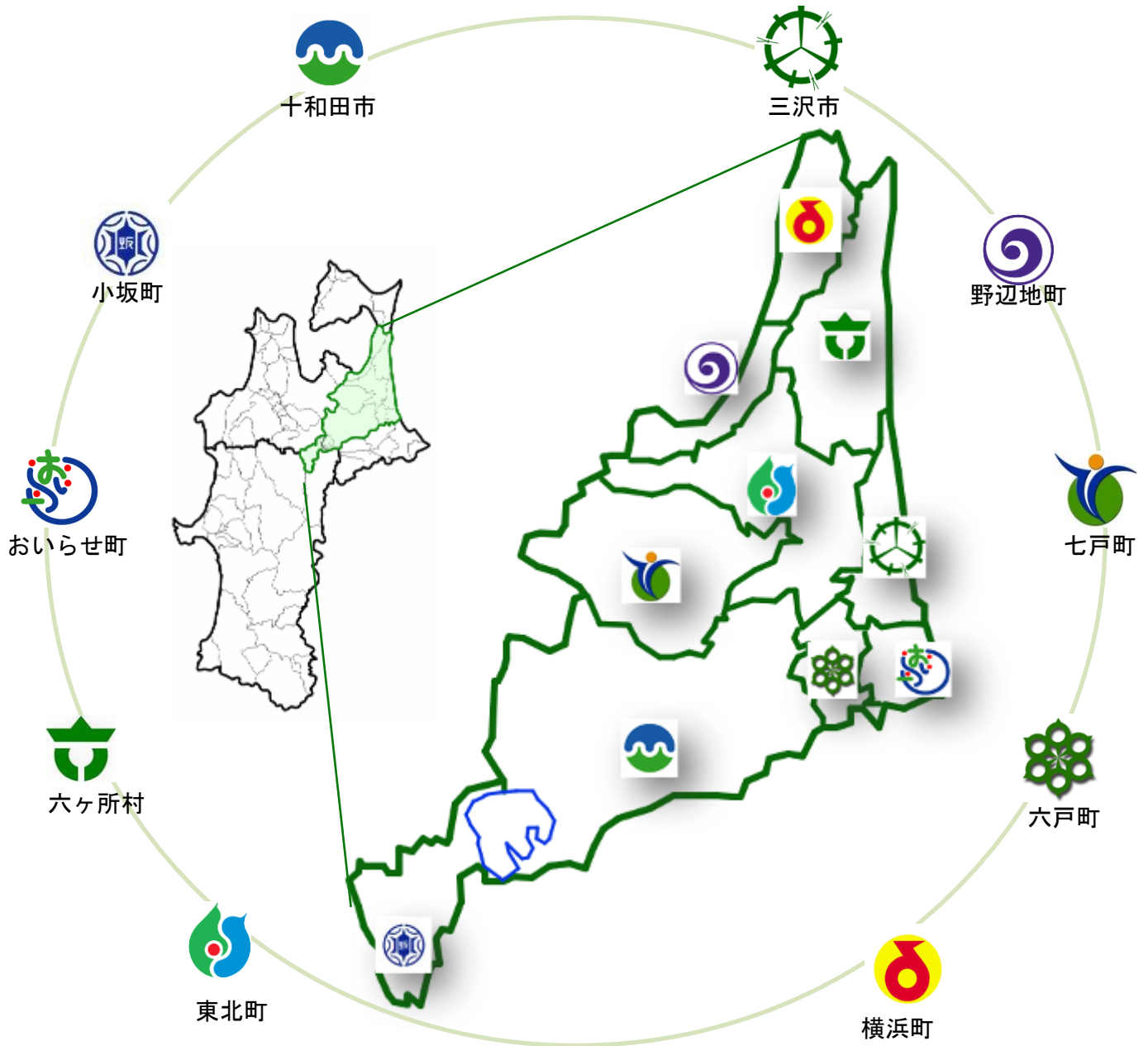


平成 30 年 1 月 31 日策定  
(令和 3 年 3 月 29 日変更)

十 和 田 市   三 沢 市

# 上十三・十和田湖広域定住自立圏

## 第3次共生ビジョン(案)



令和 年 月 日 策定

十和田市 三沢市

# 目 次

<b>第1章 定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって</b> .....	<b>1</b>
1. 定住自立圏の概要.....	1
2. 圏域形成の経緯.....	1
3. 定住自立圏の名称及び構成市町村.....	2
4. 定住自立圏共生ビジョンの目的.....	2
5. 定住自立圏共生ビジョンの期間・進捗管理.....	2
<b>第2章 圏域の概況</b> .....	<b>3</b>
1. 圏域市町村の概況.....	3
2. 人口等の推移.....	9
3. 産業別就業者数の推移.....	14
4. 都市機能の集積状況.....	15
<b>第3章 圏域のこれまでの取組と課題</b> .....	<b>18</b>
1. 圏域のこれまでの取組.....	18
2. 圏域の課題.....	21
<b>第4章 圏域の将来像</b> .....	<b>22</b>
<b>第5章 具体的取組</b> .....	<b>24</b>
1. 生活機能の強化.....	25
2. 結びつきやネットワークの強化.....	47
3. 圏域マネジメント能力の強化.....	57
<b>【資料】</b>	
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョンの主な策定経緯.....	60
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会開催要綱.....	62
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿.....	63

# 目 次

<b>第1章 定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって</b> .....	○
1. 定住自立圏の概要.....	○
2. 圏域形成の経緯.....	○
3. 定住自立圏の名称及び構成市町村.....	○
4. 定住自立圏共生ビジョンの目的.....	○
5. 定住自立圏共生ビジョンの期間・進捗管理.....	○
<b>第2章 圏域の概況</b> .....	○
1. 圏域市町村の概況.....	○
2. 人口等の推移.....	○
3. 産業別就業者数の推移.....	○
4. 都市機能の集積状況.....	○
<b>第3章 圏域のこれまでの取組と課題</b> .....	○
1. 圏域のこれまでの取組.....	○
2. 圏域の課題.....	○
<b>第4章 圏域の将来像</b> .....	○
<b>第5章 具体的取組</b> .....	○
1. 生活機能の強化.....	○
2. 結びつきやネットワークの強化.....	○
3. 圏域マネジメント能力の強化.....	○
<b>【資料】</b>	
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョンの主な策定経緯.....	○
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会開催要綱.....	○
上十三・十和田湖広域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿.....	○

# 第1章 定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって

## 1. 定住自立圏の概要

今後の日本社会では、生産年齢人口、若年人口が減る一方、高齢者の単独世帯等の増加が顕著化し高齢者人口は増加します。総じて全体の人口が減るため、住民税収入も減少し、インフラの維持管理・更新をはじめ単一の市町村ではこれまでのフルセットの行政機能を確保することが困難になることが予想されます。さらに、この状況は三大都市圏よりも地方圏において加速度的に進むと予想されています。

定住自立圏構想はそうした将来の事態に備え、圏域の中心的な役割を担う中心市と圏域町村が、協定によって有機的に連携し、相互に役割分担して連携・協力する中長期的視点に立った広域連携の取組です。

## 2. 圏域形成の経緯

### (1) 大要

本圏域の定住自立圏構想の推進にあたっては、平成21年度に上十三地域広域市町村圏協議会において定住自立圏構想に係る勉強会を開催し、上十三地域において検討することとしました。

平成22年度は、同協議会市町村長会議において定住自立圏構想を進めることを決定し、関係市町村において具体的連携事項についての検討を開始しました。

そして、平成23年度は、中心市要件を満たす十和田市と三沢市が共同で、中心となってこの構想を進めていくことを確認し、平成24年3月29日に共同中心市宣言を行いました。その後、住民の生活実態を踏まえ、十和田湖の観光振興等をはじめこれまでも連携・協力を図ってきた秋田県小坂町と、既に八戸圏域に参加している一方、上十三地域とも生活圏を同じくするおいらせ町が加わり、定住自立圏形成に関する取組内容等について協議してきました。

その結果、基本的な考え方について合意形成が図られたことから、定住自立圏形成協定について各市町村議会の議決を経て、同年10月4日、十和田市及び三沢市と圏域8町村それぞれとの間で、定住自立圏形成協定を締結しました。

### (2) 圏域形成の考え方について

本圏域は、①複眼型 ②県境型 ③圏域重複型を組み合わせ、2市7町1村で構成する圏域です。圏域を形成するにあたっての考え方・経過は次のとおりです。

#### ① 複眼型

昭和46年以来、青森県上十三地域としての広域圏を形成し、連携をしてまいりました。

同じ上十三広域圏に属する十和田市及び三沢市の中核都市2市が共同で中心市となることとし、平成24年3月29日に同じ広域圏に属する野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村とともに共同中心市宣言式を行いました。

定住自立圏構想は、住民の生活実態を踏まえ、県境を越えた連携や圏域を重複した連携を許容する柔軟な制度です。そこで、②県境型、③圏域重複型も活用して、圏域形成のフレームを検討しました。

# 第1章 定住自立圏共生ビジョンの策定にあたって

## 1. 定住自立圏の概要

現在の日本社会は、生産年齢人口、若年人口が減る一方、高齢者の単独世帯等が顕著化し高齢者人口が増加するなど少子高齢化が進行しています。総じて人口減少も進んでおり、全体の人口が減るため、住民税収入も減少し、インフラの維持管理・更新をはじめ単一の市町村ではこれまでと同様にフルセットの行政機能を確保することが一層困難になることが予想されます。さらに、この状況は三大都市圏よりも地方圏において加速度的に進んでいます。

定住自立圏構想はそのような将来の事態に備え、圏域の中心的な役割を担う中心市と圏域町村が、協定によって有機的に連携し、相互に役割分担して連携・協力する中長期的視点に立った広域連携の取組です。

## 2. 圏域形成の経緯

### (1) 大要

本圏域の定住自立圏構想の推進にあたっては、平成21年度に上十三地域広域市町村圏協議会において定住自立圏構想に係る勉強会を開催し、上十三地域において検討することとしました。

平成22年度は、同協議会市町村長会議において定住自立圏構想を進めることを決定し、関係市町村において具体的連携事項についての検討を開始しました。

そして、平成23年度は、中心市要件を満たす十和田市と三沢市が共同で、中心となってこの構想を進めていくことを確認し、平成24年3月29日に共同中心市宣言を行いました。その後、住民の生活実態を踏まえ、十和田湖の観光振興等をはじめこれまでも連携・協力を図ってきた秋田県小坂町と、既に八戸圏域に参加している一方、上十三地域とも生活圏を同じくするおいらせ町が加わり、定住自立圏形成に関する取組内容等について協議してきました。

その結果、基本的な考え方について合意形成が図られたことから、定住自立圏形成協定について各市町村議会の議決を経て、同年10月4日、十和田市及び三沢市と圏域8町村それぞれとの間で、定住自立圏形成協定を締結しました。

### (2) 圏域形成の考え方について

本圏域は、①複眼型 ②県境型 ③圏域重複型を組み合わせ、2市7町1村で構成する圏域です。圏域を形成するにあたっての考え方・経過は次のとおりです。

#### ① 複眼型

昭和46年以来、青森県上十三地域としての広域圏を形成し、連携をしてまいりました。

同じ上十三広域圏に属する十和田市及び三沢市の中核都市2市が共同で中心市となることとし、平成24年3月29日に同じ広域圏に属する野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村とともに共同中心市宣言式を行いました。

定住自立圏構想は、住民の生活実態を踏まえ、県境を越えた連携や圏域を重複した連携を許容する柔軟な制度です。そこで、②県境型、③圏域重複型も活用して、圏域形成のフレームを検討しました。

## ② 県境型

秋田県小坂町は、県は違えど、観光等十和田湖を通じて、これまでも連携をしてきたところです。従って、県境型を活用して、連携を図ることとしました。

## ③ 圏域重複型

おいらせ町は、八戸圏域にも参加していますが、一方で、この上十三地域とも生活圏を同じくするところです。従って、圏域重複型を活用して、連携を図ることとしました。

### 3. 定住自立圏の名称及び構成市町村

#### (1) 定住自立圏の名称

上十三・十和田湖広域定住自立圏

#### (2) 定住自立圏の構成市町村

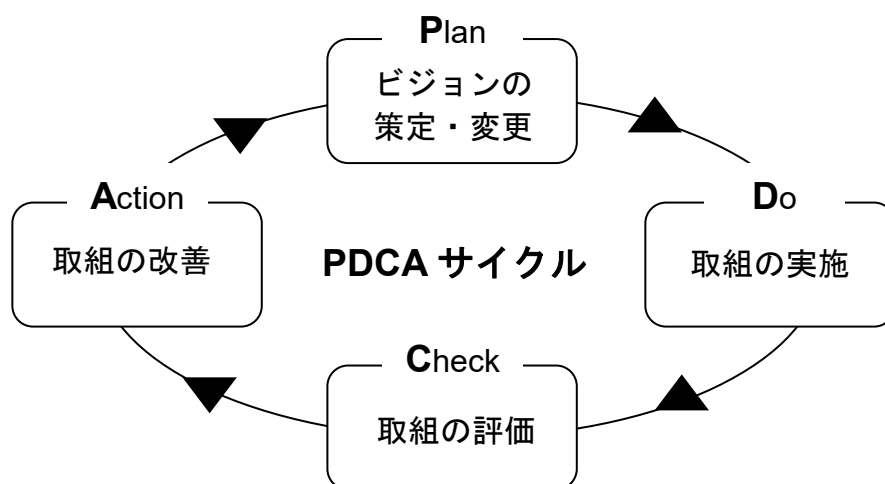
十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、小坂町

### 4. 定住自立圏共生ビジョンの目的

本共生ビジョンは、定住自立圏構想推進要綱（平成 20 年 12 月 26 日総行応第 39 号総務事務次官通知）第 6 の規定により、圏域の将来像や協定に基づき圏域市町村が連携して推進する具体的な取組内容を明らかにするものです。

### 5. 定住自立圏共生ビジョンの期間・進捗管理

本共生ビジョンの期間は、平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 年間とします。また、毎年度、取組の進捗状況を把握し、評価・検討を行い、その結果を反映させる PDCA サイクルに基づき、所要の見直しを行います。



## ② 県境型

秋田県小坂町は、県は違えど、観光等十和田湖を通じて、これまでも連携をしてきたところです。従って、県境型を活用して、連携を図ることとしました。

## ③ 圏域重複型

おいらせ町は、八戸圏域にも参加していますが、一方で、この上十三地域とも生活圏を同じくするところです。従って、圏域重複型を活用して、連携を図ることとしました。

### 3. 定住自立圏の名称及び構成市町村

#### (1) 定住自立圏の名称

上十三・十和田湖広域定住自立圏

#### (2) 定住自立圏の構成市町村

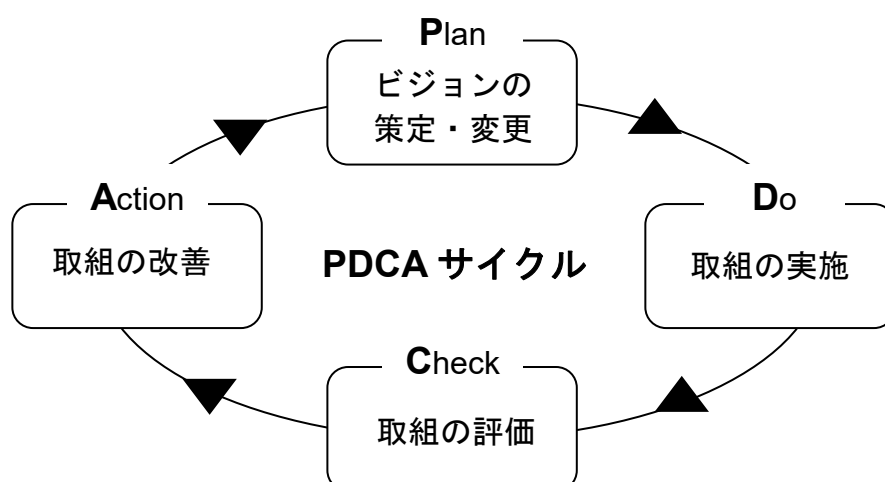
十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、小坂町

### 4. 定住自立圏共生ビジョンの目的

本共生ビジョンは、定住自立圏構想推進要綱（平成20年12月26日総行応第39号総務事務次官通知）第6の規定により、圏域の将来像や協定に基づき圏域市町村が連携して推進する具体的な取組内容を明らかにするものです。

### 5. 定住自立圏共生ビジョンの期間・進捗管理

本共生ビジョンの期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。また、毎年度、取組の進捗状況を把握し、評価・検討を行い、その結果を反映させるPDCAサイクルに基づき、所要の見直しを行います。





## 第2章 圏域の概況

### 1. 圏域市町村の概況

#### 上十三・十和田湖広域定住自立圏

明治11年、藩政時代の北郡が南北に分かれて出来た上北郡。昭和30年代に十和田と三沢が市となってからは、両市を中心に、上十三地域として人々の生活に密接に関わってきました。さらに、十和田湖に接する秋田県小坂町と八戸圏域と重複する形でおいらせ町が加わり、「上十三・十和田湖広域定住自立圏」が形成されました。

2市7町1村で形成するこの圏域は、面積約2,328km<sup>2</sup>、人口約20万6千人。三沢空港や新幹線七戸十和田駅などの高速交通拠点、共通する特産品、豊かな自然や特色ある観光資源もあふれています。

十和田市と三沢市の2市を中心市とし、県境を越え、他圏域と一部重複するこの圏域の形[複眼・県境・圏域重複型]は、全国でも初めての事例となります。

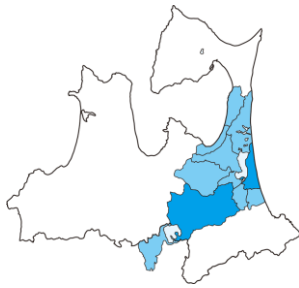
#### 市町村名

- ① 人口 (H27年国勢調査)
- ② 面積 (H27年国勢調査)
- ③ 市町村内総生産※ (H26年度)
- ④ 普通会計決算額  
歳入/歳出 (H27年度)
- ⑤ 特産物など

#### 市町村章

#### ※市町村内総生産

市町村内で1年間に生み出された付加価値の総額。市町村の経済規模を表す指標の一つ。



#### 野辺地町 Noheji Town

- ① 13,524人
- ② 81.68km<sup>2</sup>
- ③ 36,476百万円
- ④ 6,595 / 6,461百万円
- ⑤ 葉つきこかぶ、長芋、けつめい茶、ほたて、トゲクリガニなど

#### 横浜町 Yokohama Town

- ① 4,535人
- ② 126.38km<sup>2</sup>
- ③ 16,612百万円
- ④ 5,158 / 5,107百万円
- ⑤ なたね、長芋、馬鈴薯、毛まめ、ほたて貝、横浜なまこなど

#### 六ヶ所村 Rokkasho Village

- ① 10,536人
- ② 252.68km<sup>2</sup>
- ③ 377,654百万円
- ④ 14,906 / 14,656百万円
- ⑤ 本格長芋焼酎「六趣」、長芋、ごま六、うば玉、いか沖漬など

#### 東北町 Tohoku Town

- ① 17,955人
- ② 326.50km<sup>2</sup>
- ③ 49,968百万円
- ④ 12,883 / 12,672百万円
- ⑤ ナガイモ、ヤマトシジミ、シラウオ、ワカサギの佃煮、はちみつなど

#### 三沢市 Misawa City

- ① 40,196人
- ② 119.87km<sup>2</sup>
- ③ 160,950百万円
- ④ 23,661 / 22,915百万円
- ⑤ ほっき貝、いか、さけ、ひらめ、ごぼう、長芋、にんにくなど

#### 七戸町 Shichinohe Town

- ① 15,709人
- ② 337.23km<sup>2</sup>
- ③ 41,651百万円
- ④ 10,314 / 10,213百万円
- ⑤ マイルド229(にんにく)、熟成にんにく、長芋、カシス、地酒「駒泉」など

#### おいらせ町 Oirase Town

- ① 24,222人
- ② 71.96km<sup>2</sup>
- ③ 60,116百万円
- ④ 10,791 / 10,451百万円
- ⑤ 清酒桃川、長芋、ほっき貝、ごぼう、黒にんにくなど

#### 秋田県 小坂町 Kosaka Town

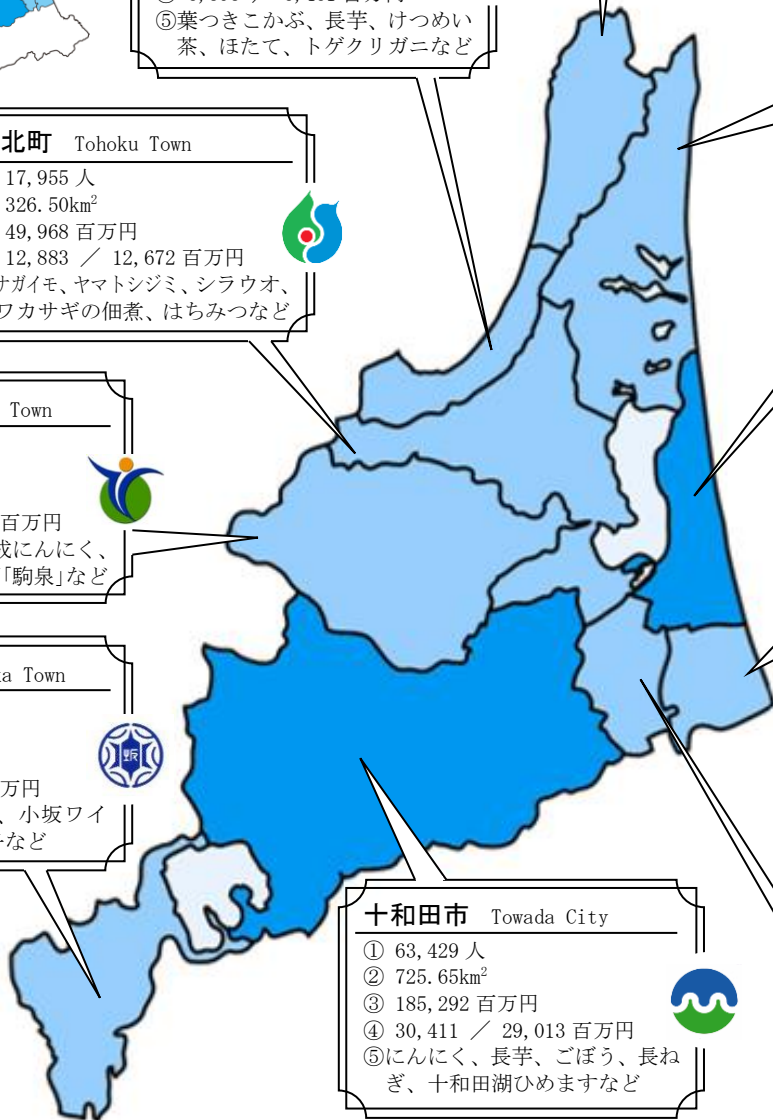
- ① 5,339人
- ② 201.70km<sup>2</sup>
- ③ 28,430百万円
- ④ 4,886 / 4,723百万円
- ⑤ 十和田湖ひめます、小坂ワイン、ぶどう、竹の子など

#### 六戸町 Rokunohe Town

- ① 10,423人
- ② 83.89km<sup>2</sup>
- ③ 25,875百万円
- ④ 5,929 / 5,545百万円
- ⑤ 大玉にんにく、にんじん、長芋、シャモロック、野菜焼酎など

#### 十和田市 Towada City

- ① 63,429人
- ② 725.65km<sup>2</sup>
- ③ 185,292百万円
- ④ 30,411 / 29,013百万円
- ⑤ にんにく、長芋、ごぼう、長ねぎ、十和田湖ひめますなど



# 第2章 圏域の概況

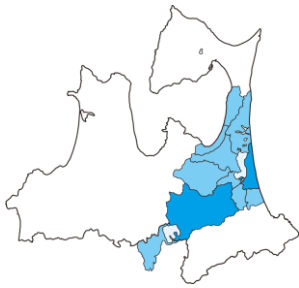
## 1. 圏域市町村の概況

### 上十三・十和田湖広域定住自立圏

明治11年、藩政時代の北郡が南北に分かれて出来た上北郡。昭和30年代に十和田と三沢が市となってからは、両市を中心に、上十三地域として人々の生活に密接に関わってきました。さらに、十和田湖に接する秋田県小坂町と八戸圏域と重複する形でおいらせ町が加わり、「上十三・十和田湖広域定住自立圏」が形成されました。

2市7町1村で形成するこの圏域は、面積約2,328km<sup>2</sup>、人口約19万7千人。三沢空港や新幹線七戸十和田駅などの高速交通拠点、共通する特産品、豊かな自然や特色ある観光資源もあふれています。

十和田市と三沢市の2市を中心市とし、県境を越え、他圏域と一部重複するこの圏域の形[複眼・県境・圏域重複型]は、全国でも初めての事例となります。



**市町村名**

- ① 人口 (R2年国勢調査)
- ② 面積 (R2年国勢調査)
- ③ 市町村内総生産※ (H30年度)
- ④ 普通会計決算額 歳入/歳出 (R2年度)
- ⑤ 特産物など



**※市町村内総生産**  
市町村内で1年間に生み出された付加価値の総額。市町村の経済規模を表す指標の一つ。

**横浜町** Yokohama Town

- ① 4,229人
- ② 126.38km<sup>2</sup>
- ③ 19,672百万円
- ④ 4,763 / 4,672百万円
- ⑤ なたね、長芋、馬鈴薯、毛まめ、ほたて貝、横浜なまこなど

**野辺地町** Noheji Town

- ① 12,374人
- ② 81.68km<sup>2</sup>
- ③ 33,791百万円
- ④ 8,060 / 7,870百万円
- ⑤ 葉つきこかぶ、長芋、けつめい茶、ほたて、トゲクリガニなど

**六ヶ所村** Rokkasho Village

- ① 10,367人
- ② 252.68km<sup>2</sup>
- ③ 267,118百万円
- ④ 16,008 / 15,700百万円
- ⑤ 本格長芋焼酎「六趣」、長芋、ごま六、ごぼうあられなど

**東北町** Tohoku Town

- ① 16,428人
- ② 326.50km<sup>2</sup>
- ③ 33,791百万円
- ④ 8,060 / 7,870百万円
- ⑤ ナガイモ、ヤマトシジミ、シラウオ、ワカサギの佃煮、ハチミツなど

**三沢市** Misawa City

- ① 39,152人
- ② 119.87km<sup>2</sup>
- ③ 162,957百万円
- ④ 27,895 / 27,135百万円
- ⑤ ほっき貝、いか、さけ、ひらめ、ごぼう、長芋、にんにくなど

**七戸町** Shichinohe Town

- ① 14,556人
- ② 337.23km<sup>2</sup>
- ③ 42,948百万円
- ④ 13,304 / 13,073百万円
- ⑤ マイルドにんにく、熟成黒にんにく、長芋、アピオス、地酒(駒泉・作田)など

**おいらせ町** Oirase Town

- ① 24,273人
- ② 71.96km<sup>2</sup>
- ③ 72,484百万円
- ④ 13,405 / 13,069百万円
- ⑤ 清酒桃川、長芋、ほっき貝、ごぼう、黒にんにくなど

**秋田県 小坂町** Kosaka Town

- ① 4,780人
- ② 201.70km<sup>2</sup>
- ③ 30,155百万円
- ④ 5,734 / 5,587百万円
- ⑤ 十和田湖ひめます、小坂ワイン、ぶどう、竹の子など

**六戸町** Rokunohe Town

- ① 10,447人
- ② 83.89km<sup>2</sup>
- ③ 26,075百万円
- ④ 7,313 / 7,173百万円
- ⑤ 大玉にんにく、にんじん、長芋、シャモロック、野菜焼酎など

**十和田市** Towada City

- ① 60,378人
- ② 725.65km<sup>2</sup>
- ③ 187,562百万円
- ④ 45,416 / 43,077百万円
- ⑤ にんにく、長芋、ごぼう、長ねぎ、十和田湖ひめますなど



## 十和田市

人口：63,429人  
面積：725.65km<sup>2</sup>

十和田市は、四季を織りなす十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田の自然と、十和田市現代美術館を中心に、全体をひとつの美術館に見立てた官庁街通りなど、豊かな自然とアートが融合した美しいまちです。

この、先人たちから大切に受け継いできた多彩な地域資源や、このまちに暮らす市民の知恵を最大限に活かし、共に力を合わせていくことで、より多くの人々から「住みたい」、「住み続けたい」、「訪れたい」と強く支持されるまちづくりを進めています。

また、次世代を担う子どもたちにも強い誇りと自信を持って継承できる、未来への希望に満ちあふれた理想のふるさと「～わたしたちが創る～希望と活力あふれる十和田」を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- にんにく
- ごぼう
- しいたけ
- 十和田湖和牛
- 十和田バラ焼き
- 長芋
- 長ねぎ
- 十和田湖ひめます
- 奥入瀬ビール
- 南部裂織

### 【観光名所】

- 十和田湖
- 八甲田山
- 日本の道百選「官庁街通り」
- 法量の大イチョウ
- 十和田市現代美術館
- 奥入瀬溪流



十和田湖



## 三沢市

人口：40,196人  
面積：119.87km<sup>2</sup>

三沢市は青森県の南東部に位置し、東は太平洋、西は小川原湖に臨んでいます。東西約11km、南北約25km、面積約120平方kmの平坦地で、世界的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「仏沼」を始めとする豊かな自然に恵まれています。

古くから馬産地として栄えた県南にあって、三沢市域は江戸時代には藩政牧場の「木崎牧」に含まれ、人々は馬産や漁業に携わっていましたが、太平洋戦争後に旧日本海軍飛行場が米軍三沢基地となり、三沢市は大きく変貌しました。

現在は、全国有数の航空施設がある大空のまちとして、約4万人の人口に加え多くの米軍人、軍属及びその家族が暮らし、異国情緒漂う国際都市として独自の発展を続けています。

### 【特産品・グルメ】

- ホッキ貝
- さけ
- ごぼう
- にんにく
- チーズロール
- いか
- ひらめ
- 長芋
- パイカ料理
- ホッキ丼

### 【観光名所】

- アメリカ村
- 寺山修司記念館
- 青森県立三沢航空科学館
- 道の駅みさわ「斗南藩記念観光村」
- ラムサール条約登録湿地「仏沼」



ハロウィンフェスタの様子





## 十和田市

人口：60,378人  
面積：725.65km<sup>2</sup>

十和田市は、四季を織りなす十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田の自然と、十和田市現代美術館を中心に、全体をひとつの美術館に見立てた官庁街通りなど、豊かな自然とアートが融合した美しいまちです。

この、先人たちから大切に受け継いできた多彩な地域資源や、このまちに暮らす市民の知恵を最大限に活かし、共に力を合わせていくことで、より多くの人々から「住みたい」、「住み続けたい」、「訪れたい」と強く支持されるまちづくりを進めています。

また、次世代を担う子どもたちにも強い誇りと自信を持って継承できる、未来への希望に満ちあふれた理想のふるさと「～わたしたちが創る～希望と活力あふれる十和田」を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- にんにく
- ごぼう
- しいたけ
- 十和田湖和牛
- 十和田バラ焼き
- 長芋
- 長ねぎ
- 十和田湖ひめます
- 奥入瀬ビール
- 南部裂織

### 【観光名所】

- 十和田湖
- 八甲田山
- 日本の道百選「官庁街通り」
- 法量のダイチョウ
- 十和田市現代美術館
- 奥入瀬溪流



十和田湖



## 三沢市

人口：39,152人  
面積：119.87km<sup>2</sup>

三沢市は青森県の南東部に位置し、東は太平洋、西は小川原湖に臨んでいます。東西約11km、南北約25km、面積約120平方kmの平坦地で、世界的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「仏沼」を始めとする豊かな自然に恵まれています。

古くから馬産地として栄えた県南にあって、三沢市域は江戸時代には藩政牧場の「木崎牧」に含まれ、人々は馬産や漁業に携わっていましたが、太平洋戦争後に旧日本海軍飛行場が米軍三沢基地となり、三沢市は大きく変貌しました。

現在は、全国有数の航空施設がある大空のまちとして、約4万人の人口に加え多くの米軍人、軍属及びその家族が暮らし、異国情緒漂う国際都市として独自の発展を続けています。

### 【特産品・グルメ】

- ホッキ貝
- さけ
- ごぼう
- にんにく
- チーズロール
- いか
- ひらめ
- 長芋
- パイカ料理
- ホッキ丼

### 【観光名所】

- アメリカ村
- 寺山修司記念館
- 青森県立三沢航空科学館
- 道の駅みさわ「斗南藩記念観光村」
- ラムサール条約登録湿地「仏沼」



ハロウィンフェスタの様子



## 野辺地町

人口：13,524人  
面積：81.68km<sup>2</sup>

野辺地町は、下北半島の玄関口に位置し、古くから交通の要衝として発展してきました。江戸時代から明治の初年にかけては、北前船が盛んに往来し、盛岡藩有数の商港としても栄えた歴史もあります。

また、陸奥湾と八甲田連峰の山麓に囲まれた豊かな自然と、上方の文化をくむ伝統ある祭りなど、四季折々の様々な彩が重なり合うまちです。

町のスローガン「笑顔あふれるまちのへじ」は、町民どうしが共に支え合い、はつらつとした笑顔に満ちあふれ、だれもが安心して暮らせるまちづくりを理念としており、町民と行政が一体となりながらその実現を目指します。

### 【特産品・グルメ】

- ホタテ
- トゲクリガニ
- ナマコ
- 葉つきこかぶ
- 長芋
- かわらけつめい製品

### 【観光名所】

- 浜町の常夜燈
- 十符ヶ浦海水浴場
- 日本最古の鉄道防雪林
- 旧野村家住宅離れ（行在所）
- 国設野辺地まかど温泉スキー場
- 柴崎地区健康レクリエーション施設
- 烏帽子岳
- 愛宕公園



浜町の常夜燈



## 七戸町

人口：15,709人  
面積：337.23km<sup>2</sup>

七戸町は、青森県の東部に位置し、西方に八甲田山系が連なり、山麓から延びる丘陵は高低差が少なく、広大な水田地帯を形成している内陸部の町です。

平成22年12月4日、東北新幹線七戸十和田駅の開業により新しい歴史の第一歩を踏み出しました。七戸十和田駅は、上十三・下北地域の玄関口であるとともに、七戸町の変革・発展への入口でもあります。また、国道4号が南北に縦断、国道394号が4号と交差し東西に横断し、みちのく有料道路で青森市と結ばれているなど、観光地十和田湖・下北半島への新しい玄関口として、交通の要衝となっています。

恵まれた美しい自然環境の中、「潤いと彩りあふれる田園文化都市をめざして」を町の将来像とし、歴史や文化を次の世代に確実に伝承しながら、「住んでいる人も訪れる人も心の豊かさを実感できる町づくり」を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- 駒まんじゅう
- 長芋
- お酒
- アピオス
- 熟成にんにく
- そば
- 南部せんべい
- マイルドにんにく
- 山の芋
- みよこ米

### 【観光名所】

- 国史跡七戸城跡
- 天王神社のツツジ
- 国史跡二ツ森貝塚
- 県史跡一里塚
- 鷹山宇一記念美術館
- ローズガーデン
- 道の駅しちのへ



東北新幹線七戸十和田駅



## 野辺地町

人口：12,374人  
面積：81.68km<sup>2</sup>

野辺地町は、下北半島の玄関口に位置し、古くから交通の要衝として発展してきました。江戸時代から明治の初年にかけては、北前船が盛んに往来し、盛岡藩有数の商港としても栄えた歴史もあります。

また、陸奥湾と八甲田連峰の山麓に囲まれた豊かな自然と、上方の文化をくむ伝統ある祭りなど、四季折々の様々な彩が重なり合うまちです。

町のスローガン「未来につなげる幸せのまち のへじ」のもと、素晴らしい私たちのふるさとである野辺地町で、子どもや若者が希望を持ち、明るく元気に活躍し、町民誰もが笑顔あふれる未来につなげる幸せのまちづくりを町民とともに築いていきます。

### 【特産品・グルメ】

- ホタテ
- トゲクリガニ
- ナマコ
- 葉つきこかぶ
- 長芋
- かわらけつめい製品

### 【観光名所】

- 浜町の常夜燈
- 十符ヶ浦海水浴場
- 日本最古の鉄道防雪林
- 旧野村家住宅離れ（行在所）
- 国設野辺地まかど温泉スキー場
- 柴崎地区健康レクリエーション施設
- 烏帽子岳
- 愛宕公園



浜町の常夜燈



## 七戸町

人口：14,556人  
面積：337.23km<sup>2</sup>

七戸町は、青森県の東部に位置し、西方に八甲田山系が連なり、山麓から延びる丘陵は高低差が少なく、広大な水田地帯を形成している内陸部の町です。

平成22年12月4日、東北新幹線七戸十和田駅の開業により新しい歴史の第一歩を踏み出しました。七戸十和田駅は、上十三・下北地域の玄関口であるとともに、七戸町の変革・発展への入口でもあります。また、国道4号が南北に縦断、国道394号が4号と交差し東西に横断し、みちのく有料道路で青森市と結ばれているなど、観光地十和田湖・下北半島への新しい玄関口として、交通の要衝となっています。

恵まれた美しい自然環境の中、「潤いと彩りあふれる田園文化都市をめざして」を町の将来像とし、歴史や文化を次の世代に確実に伝承しながら、「住んでいる人も訪れる人も心の豊かさを実感できるまちづくり」を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- 駒まんじゅう
- 長芋
- 地酒(駒泉・作田)
- 七戸短角牛
- みよこ米
- そば
- 南部裂織
- マイルドにんにく
- アピオス
- NAMIKI 和牛

### 【観光名所】

- 国史跡七戸城跡
- 天王神社のツツジ
- 国史跡二ツ森貝塚(北海道・北東北の縄文遺跡群)
- 県史跡一里塚
- 鷹山宇一記念美術館
- 東八甲田ローズカンントリー
- 道の駅しちのへ



東北新幹線七戸十和田駅



## 六戸町

人口：10,423人  
面積：83.89km<sup>2</sup>

六戸町は、青森県南部の交通の要衝に位置しており、十和田湖を源にする奥入瀬川が、町の中央よりやや南部を東西に流れています。その流域には水田が広がり、田園を中心とする里山としての景観を形成しています。また冬期の寒さは厳しいものの、四季の変化に富んだ気候は、比較的穏やかな環境を有しています。

「恵みの大地と人が結びあう やすらぎと感動の定住拠点・六戸」とは町民ひとりひとりが個性や生きがいを大切にし、暮らす場所としての質の向上を積極的に行い、基幹産業である農業を中心に活力と交流あるまちづくりの実践、人と人との絆の強化をしていくことを柱とした六戸町の将来像を表す言葉です。

私たちは、言わば、「キラリと光る定住拠点」をつくりたいという思いを形にしていきたいと思います。

### 【特産品・グルメ】

- 大玉にんにく
- 大根
- にんじん
- キャベツ
- 長芋
- 白菜
- ごぼう
- シャモロック
- 野菜焼酎（長芋、ごぼう、にんにく）

### 【観光名所】

- 館野公園
- 星野リゾート青森屋・旧渋沢邸
- 旧苔米地邸
- 十和田国際カントリークラブ



メイプルタウンマラソン



## 横浜町

人口：4,535人  
面積：126.38km<sup>2</sup>

横浜町は、町のキャッチフレーズである「山海の恵み、ふれあいの里横浜町」にあるとおり、周囲を山や海などの豊かな自然に囲まれた町です。

昭和50年、幸せを求めてたゆまぬ努力を続けてきた祖先の心を受け継ぎ、より美しく豊かで住みよい町にするために町民の誓いを制定しました。

1. 青い海、緑と花を愛します。
1. 健康な心と体をつくります。
1. 時間ときまりを守ります。
1. だれにでも親切にします。
1. 常に学ぶことに努めます。

豊かな自然と豊かな心溢れる横浜町は、住んでよかった、行ってみてよかったと実感して頂けるようなまちづくりを目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- ホタテ
- 横浜なまこ
- 長芋
- 馬鈴薯
- 毛まめ
- なたね
- 菜の花ドーナツ

### 【観光名所】

- 菜の花畑
- 吹越烏帽子
- 砂浜海岸海水浴場
- よこはま温泉
- 砂浜海岸コテージ
- 八幡神社
- 道の駅「よこはま」菜の花プラザ



菜の花畑





## 六戸町

人口：10,447人  
面積：83.89km<sup>2</sup>

六戸町は、青森県南部の交通の要衝に位置しており、十和田湖を源にする奥入瀬川が、町の中央よりやや南部を東西に流れています。その流域には水田が広がり、田園を中心とする里山としての景観を形成しています。また冬期の寒さは厳しいものの、四季の変化に富んだ気候は、比較的穏やかな環境を有しています。

「恵みの大地と人が結びあう やすらぎと感動の定住拠点・六戸」とは町民ひとりひとりが個性や生きがいを大切にし、暮らす場所としての質の向上を積極的に行い、基幹産業である農業を中心に活力と交流あるまちづくりの実践、人と人との絆の強化をしていくことを柱とした六戸町の将来像を表す言葉です。

私たちは、言わば、「キラリと光る定住拠点」をつくりたいという思いを形にしていきたいと思います。

### 【特産品・グルメ】

- 大玉にんにく
- 大根
- にんじん
- キャベツ
- 長芋
- 白菜
- ごぼう
- シャモロック
- 野菜焼酎（長芋、ごぼう、にんにく）

### 【観光名所】

- 館野公園
- 星野リゾート青森屋・旧渋沢邸
- 旧苔米地邸
- 十和田国際カントリークラブ



メイプルタウンマラソン



## 横浜町

人口：4,229人  
面積：126.38km<sup>2</sup>

横浜町は、町のキャッチフレーズである「山海の恵み、ふれあいの里横浜町」にあるとおり、周囲を山や海などの豊かな自然に囲まれた町です。

昭和50年、幸せを求めてたゆまぬ努力を続けてきた祖先の心を受け継ぎ、より美しく豊かで住みよい町にするために町民の誓いを制定しました。

1. 青い海、緑と花を愛します。
1. 健康な心と体をつくります。
1. 時間ときまりを守ります。
1. だれにでも親切にします。
1. 常に学ぶことに努めます。

豊かな自然と豊かな心溢れる横浜町は、住んでよかった、行ってみてよかったと実感して頂けるようなまちづくりを目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- ホタテ
- 横浜なまこ
- 長芋
- 馬鈴薯
- 毛まめ
- なたね
- 菜の花ドーナツ

### 【観光名所】

- 菜の花畑
- 吹越烏帽子
- 砂浜海岸海水浴場
- よこはま温泉
- 砂浜海岸コテージ
- 八幡神社
- 道の駅「よこはま」菜の花プラザ



菜の花畑





## 東北町

人口：17,955人  
面積：326.50km<sup>2</sup>

東北町は、青森県の東部、上北地方のほぼ中央部にあって、県東部の空の玄関である三沢空港や地域の中心都市である十和田市に近接しているほか、県都青森市、県南部地方の拠点都市である八戸市からも約40km圏に位置しており、恵まれた立地条件にあります。

地勢は八甲田山系から続く丘陵地、台地が大部分を占め、七戸川、砂土路川などの河川沿いに平坦地が広がっており、東部一帯には県内で最大、全国でも11番目の面積を誇る「小川原湖」があり、「小川原湖191番地」という地籍を持つ湖があります。

また、町内には豊富な湯量を誇る多くの源泉掛け流し温泉が点在し、その効能は植物成分が多く含まれたモール温泉で、「美人の湯」とも言われています。

東北町では、将来像を「笑顔・元気・活力あふれ 未来に羽ばたく とうほくまち」に定めています。

### 【特産品・グルメ】

- シラウオ                      ○ワカサギ
- ヤマトシジミ              ○ウナギ
- ナガイモ                    ○ダイコン
- ニンジン                     ○ニンニク
- ガニ汁                      ○佃煮・筏焼き
- ヤーコン焼酎              ○はちみつ

### 【観光名所】

- 小川原湖公園              ○日本中央の碑保存館
- 歴史民俗資料館          ○かやぶき家屋まなか
- 明治天皇親巡蹟          ○大塚甲山歌碑
- 小川原湖交流センター宝湖館



小川原湖



## 六ヶ所村

人口：10,536人  
面積：252.68km<sup>2</sup>

六ヶ所村は、下北半島の付け根部分の太平洋側に位置し、変化に富んだ海岸、広漠とした湖沼群・丘陵地など特徴的な景観を有しています。

産業は畑作、漁業、酪農などの第1次産業が盛ん。村を代表する農産物の長芋を原料にした本格焼酎「六趣（ろくしゅ）」は村の代表的な特産品です。

一方で村は、国家石油備蓄基地や原子燃料サイクル施設が立地する国内エネルギーの中核を担う「エネルギーの村」でもあります。

自然と歴史に培われた郷土を愛する心を大切にしながら、「科学やエネルギーなど新たな可能性を持つ未来社会へ向けて躍進していくこと」をまちづくりの理念に掲げ、村民一人一人が豊かに暮らし、村民の夢が実現できるように“安らぎと幸せを実感できるまち”の実現を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- 本格長芋焼酎「六趣」      ○長芋
- ごま六                      ○うに羊羹                      ○いか沖漬
- ひらめ「おさしみスモーク」

### 【観光名所】

- 六趣醸造工房
- スパハウスろっかぽっか
- 次世代エネルギーパーク
- 村立郷土館                  ○物見崎灯台
- マテ小屋                    ○タタミ岩
- 野鳥観察公園



たのしむべ！フェスティバル



## 東北町

人口：16,428人  
面積：326.50km<sup>2</sup>

東北町は、青森県の東部、上北地方のほぼ中央部にあって、県東部の空の玄関である三沢空港や地域の中心都市である十和田市に近接しているほか、県都青森市、県南部地方の拠点都市である八戸市からも約40km圏に位置しており、恵まれた立地条件にあります。

地勢は八甲田山系から続く丘陵地、台地が大部分を占め、七戸川、砂土路川などの河川沿いに平坦地が広がっており、東部一帯には県内で最大、全国でも11番目の面積を誇る「小川原湖」があり、「小川原湖191番地」という地籍を持つ**めずらしい湖**でもあります。

また、町内には豊富な湯量を誇る多くの源泉掛け流し温泉が点在し、その効能は植物成分が多く含まれたモール温泉で、「**いで湯の里**」とも言われています。

東北町では、将来像を「笑顔・元気・活力あふれ 未来に羽ばたく とうほくまち」に定めています。

### 【特産品・グルメ】

- シラウオ
- ワカサギ
- ヤマトシジミ
- ウナギ
- ナガイモ
- ニンニク
- ゴボウ
- ダイコン
- ニンジン
- ガニ汁
- 佃煮・筏焼き
- ヤーコン焼酎
- ハチミツ
- あおい森の牛乳

### 【観光名所】

- 小川原湖公園
- 日本中央の碑保存館
- 歴史民俗資料館
- かやぶき家屋まなか
- 明治天皇親巡蹟
- 道の駅おがわら湖
- 小川原湖ふれあい村



春の小川原湖



## 六ヶ所村

人口：10,367人  
面積：252.68km<sup>2</sup>

六ヶ所村は、下北半島の付け根部分の太平洋側に位置し、変化に富んだ海岸、広漠とした湖沼群・丘陵地など特徴的な景観を有しています。

産業は畑作、漁業、酪農などの第1次産業が盛ん。村を代表する農産物の長芋を原料にした本格焼酎「六趣（ろくしゅ）」は村の代表的な特産品です。

一方で村は、国家石油備蓄基地や原子燃料サイクル施設が立地する国内エネルギーの中核を担う「エネルギーの村」でもあります。

自然と歴史に培われた郷土を愛する心を大切にしながら、「科学やエネルギーなど新たな可能性を持つ未来社会へ向けて躍進していくこと」をまちづくりの理念に掲げ、村民一人一人が豊かに暮らし、村民の夢が実現できるように“安らぎと幸せを実感できるまち”の実現を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- 本格長芋焼酎「六趣」
- 長芋
- ごま六
- ごぼうあられ

### 【観光名所】

- 六趣醸造工房
- 特産品販売所「六旬館」
- スパハウスろっかぽっか
- 次世代エネルギーパーク
- 村立郷土館
- 物見崎灯台
- マテ小屋
- タタミ岩
- 野鳥観察公園



たのしむべ！フェスティバル



## おいらせ町

人口：24,222人  
面積：71.96km<sup>2</sup>

県南地方の中心都市（八戸・三沢・十和田）のほぼ中心に位置するという恵まれた環境により、陸（高速道IC・新幹線駅）、海（八戸港）、空（三沢空港）の全ての交通手段が20分圏内にあるという利便性に富んだ町です。

産業面では、水稻・畑作・畜産及び施設園芸を主体とした複合型農業や、臨海部の百石工業団地及びショッピングセンターを核とした商業集積等、商工業の振興による雇用の場の創出を促進しています。

さらに、町独自に保育料の上限額の引下げや中学生までの医療費無料、放課後児童クラブの利用料無料など、子育て支援策の充実に努めています。

健康長寿の推進と元気な地域社会の創造に向け、町民がライフステージごとに輝いて生活し、自己実現できる環境を整えるとともに、土地利用の適正化と生活環境の整備を促進し、居住地域としての機能の充実に努めています。

### 【特産品・グルメ】

- 清酒桃川 ○天然のホッキ貝
- だるま芋へっちょこ汁 ○熟成黒にんにく
- 百石栗 ○にんじん娘 ○おっぱいメロン
- 長いも ○にんじん ○ごぼう ○大根

### 【観光名所】

- 日本一の自由の女神像
- 長寿日本一の根岸の大いちょう
- 日本一の鮭まつり ○カワヨグリーン牧場
- アグリのリおいらせ ○大山将棋記念館
- 海浜公園 ○氣比神社 ○下田公園
- いちょう公園 ○おいらせ阿光坊古墳館



日本一の自由の女神像



## 小坂町

人口：5,339人  
面積：201.70km<sup>2</sup>

小坂町は、世界に誇る十和田湖と豊かな自然に囲まれた「十和田湖のある町」。日本の近代化を支えた東洋一の銅山の歴史と鉱山遺産・文化に包まれた「明治の香りただよう町」。常に時代を牽引してきた鉱業技術を活用した環境リサイクル産業の定着及び発展を図るとともに、町民の協力を得て取り組んでいる菜の花プロジェクトなどによるバイオマスタウン事業を推進する「資源循環の町」です。

他には例を見ないこうした小坂町の「町の個性」に加え、町民個々の経験や意欲など「人の個性」を活かす「個性の際立つまちづくり」を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- 桃豚 ○ぶどう
- 十和田湖ひめます ○小坂ワイン
- アカシア蜂蜜 ○竹の子
- ぶどうジュース ○菜々の油

### 【観光名所】

- 十和田湖 ○小坂鉱山事務所
- 明治の芝居小屋「康楽館」
- 日本の滝百選「七滝」
- 紫明亭展望台 ○発荷峠展望台
- 笹森展望所 ○天使館
- 中小路の館
- 小坂鉄道レールパーク



明治の芝居小屋「康楽館」





## おいらせ町

人口：24,273人  
面積：71.96km<sup>2</sup>

県南地方の中心都市（八戸・三沢・十和田）のほぼ中心に位置するという恵まれた環境により、陸（高速道IC・新幹線駅）、海（八戸港）、空（三沢空港）の全ての交通手段が20分圏内にあるという利便性に富んだ町です。

産業面では、水稲・畑作・畜産及び施設園芸を主体とした複合型農業や、臨海部の百石工業団地及びショッピングセンターを核とした商業集積等、商工業の振興による雇用の場の創出を促進しています。

さらに、町独自に小中学校の給食費無料化、保育料の上限額の引下げや中学生までの医療費無料、放課後児童クラブの利用料無料など、子育て支援策の充実に努めています。

健康長寿の推進と元気な地域社会の創造に向け、町民がライフステージごとに輝いて生活し、自己実現できる環境を整えるとともに、土地利用の適正化と生活環境の整備を促進し、居住地域としての機能の充実を目指しています。

### 【特産品・グルメ】

- 清酒桃川 ○天然のホッキ貝
- だるま芋へっちょこ汁 ○熟成黒にんにく
- 百石栗 ~~○にんじん娘~~ ~~○おっぱいメロン~~
- 長いも ○にんじん ○ごぼう ○大根

### 【観光名所】

- 日本一の自由の女神像
- ~~長寿日本一~~の根岸の大いちょう
- ~~日本一~~の鮭まつり ○カワヨグリーン牧場
- アグリのリおいらせ ○大山将棋記念館
- 海浜公園 ○氣比神社 ○下田公園
- いちょう公園 ○おいらせ阿光坊古墳館



日本一の自由の女神像



## 小坂町

人口：4,780人  
面積：201.70km<sup>2</sup>

小坂町は秋田県の北東部に位置し、北東北三県のほぼ中央に位置しています。世界に誇る十和田湖をはじめとする自然と共生する豊かな環境や、日本の近代化を支えた鉱山の町としての近代化遺産群など、「ひと」「自然」「文化」の様々な魅力が現在のまちや暮らしの中に共有財産としてあふれている町です。

産業面では、小坂七滝ワイナリーを核とした原料生産から醸造までを町内で行う純小坂産ワインの普及やポテトチップスの材料となるジャガイモ栽培にも取り組んでいるほか、新たな十和田湖への玄関口として十和田湖和井内地区で道の駅を整備するなど、「十和田湖ひめます」の認知度向上及び観光の回遊ルートの構築にも力を入れています。

また、結婚新生活への助成や小中学校への給食費助成及び教材費の全額助成、保育料完全無償化など、子育て支援策の充実に力を入れています。

こうした小坂町の魅力を地域の個性としてまちの発展に生かし、訪れる人が感動し、住む人が愛着を持ち続けられる「ひとと自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち」の実現を目指します。

### 【特産品・グルメ】

- 桃豚 ○ぶどう
- 十和田湖ひめます ○小坂ワイン
- アカシア蜂蜜 ○竹の子
- ぶどうジュース ○菜々の油

### 【観光名所】

- 十和田湖 ○小坂鉱山事務所
- 明治の芝居小屋「康楽館」
- 日本の滝百選「七滝」
- 紫明亭展望台 ○発荷峠展望台
- 笹森展望所 ○天使館
- 中小路の館
- 小坂鉄道レールパーク



明治の芝居小屋「康楽館」

## 2. 人口等の推移

※ 平成 17 年以前の各市町村の数値は、合併前の市町村の数値を合算したものの。

※ 増減率は、小数点第 2 位を四捨五入。

### (1) 人口の推移

圏域全体の人口は平成 12 年をピークに減少傾向にあります。市町村別にみると、おいらせ町は、増加傾向にあります。その他の市町村は、横ばい又は減少傾向にあります。

表 人口の推移

単位：人

市町村名	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	増減(平成 12-27 年)	
					増減	増減率
十和田市	69,630	68,359	66,110	63,429	▲ 6,201	▲ 8.9%
三沢市	42,495	42,425	41,258	40,196	▲ 2,299	▲ 5.4%
野辺地町	16,012	15,218	14,314	13,524	▲ 2,488	▲ 15.5%
七戸町	19,357	18,471	16,759	15,709	▲ 3,648	▲ 18.8%
六戸町	10,481	10,430	10,241	10,423	▲ 58	▲ 0.6%
横浜町	5,508	5,097	4,881	4,535	▲ 973	▲ 17.7%
東北町	20,591	20,016	19,106	17,955	▲ 2,636	▲ 12.8%
六ヶ所村	11,849	11,401	11,095	10,536	▲ 1,313	▲ 11.1%
おいらせ町	23,220	24,172	24,211	24,222	1,002	4.3%
小坂町	7,171	6,824	6,054	5,339	▲ 1,832	▲ 25.5%
合計	226,314	222,413	214,029	205,868	▲ 20,446	▲ 9.0%

出典：国勢調査(総務省統計局)

### (2) 世帯数の推移

圏域全体の世帯数は増加傾向にあります。市町村別にみると、十和田市、三沢市、六戸町、東北町及びおいらせ町は増加傾向にあります。その他の町村は、横ばい又は減少傾向にあります。

表 世帯数の推移

単位：世帯

市町村名	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	増減(平成 12-27 年)	
					増減	増減率
十和田市	24,395	25,358	25,554	25,487	1,092	4.5%
三沢市	15,636	15,946	16,211	16,367	731	4.7%
野辺地町	6,057	5,880	5,766	5,565	▲ 492	▲ 8.1%
七戸町	5,938	5,823	5,713	5,572	▲ 366	▲ 6.2%
六戸町	3,042	3,231	3,307	3,570	528	17.4%
横浜町	1,888	1,872	1,884	1,785	▲ 103	▲ 5.5%
東北町	5,905	6,020	6,007	5,974	69	1.2%
六ヶ所村	5,021	4,729	4,751	4,683	▲ 338	▲ 6.7%
おいらせ町	7,388	8,009	8,330	8,658	1,270	17.2%
小坂町	2,571	2,596	2,390	2,168	▲ 403	▲ 15.7%
合計	77,841	79,464	79,913	79,829	1,988	2.6%

出典：国勢調査(総務省統計局)

## 2. 人口等の推移

※ 平成17年以前~~の~~各市町村の数値は、合併前の各市町村の数値を合算したものの。

※ 増減は、平成17年と令和2年の比較。増減率は、小数点第2位を四捨五入。

### (1) 人口の推移

圏域全体の人口は平成12年をピークに減少傾向にあります。市町村別にみると、おいらせ町は増加傾向にありますが、その他の市町村は、横ばい又は減少傾向にあります。

表 人口の推移

単位：人

市町村名	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	増減( <del>平成17-</del> 令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	68,359	66,110	63,429	60,378	▲ 7,981	▲ 11.7%
三沢市	42,425	41,258	40,196	39,152	▲ 3,273	▲ 7.7%
野辺地町	15,218	14,314	13,524	12,374	▲ 2,844	▲ 18.7%
七戸町	18,471	16,759	15,709	14,556	▲ 3,915	▲ 21.2%
六戸町	10,430	10,241	10,423	10,447	17	0.2%
横浜町	5,097	4,881	4,535	4,229	▲ 868	▲ 17.0%
東北町	20,016	19,106	17,955	16,428	▲ 3,588	▲ 17.9%
六ヶ所村	11,401	11,095	10,536	10,367	▲ 1,034	▲ 9.1%
おいらせ町	24,172	24,211	24,222	24,273	101	0.4%
小坂町	6,824	6,054	5,339	4,780	▲ 2,044	▲ 30.0%
合計	222,413	214,029	205,868	196,984	▲ 25,429	▲ 11.4%

出典：国勢調査（総務省統計局）

### (2) 世帯数の推移

圏域全体の世帯数は増加傾向にあります。市町村別にみると、~~十和田市~~、三沢市、六戸町、~~東北町~~、及びおいらせ町は増加傾向にありますが、その他の町村は、横ばい又は減少傾向にあります。

表 世帯数の推移

単位：世帯

市町村名	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	増減( <del>平成17-</del> 令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	25,358	25,554	25,487	25,540	182	0.7%
三沢市	15,946	16,211	16,367	17,252	1,306	8.2%
野辺地町	5,880	5,766	5,565	5,433	▲ 447	▲ 7.6%
七戸町	5,823	5,713	5,572	5,447	▲ 376	▲ 6.5%
六戸町	3,231	3,307	3,570	3,840	609	18.8%
横浜町	1,872	1,884	1,785	1,813	▲ 59	▲ 3.2%
東北町	6,020	6,007	5,974	5,871	▲ 149	▲ 2.5%
六ヶ所村	4,729	4,751	4,683	5,194	465	9.8%
おいらせ町	8,009	8,330	8,658	9,258	1,249	15.6%
小坂町	2,596	2,390	2,168	2,043	▲ 553	▲ 21.3%
合計	79,464	79,913	79,829	81,691	2,227	2.8%

出典：国勢調査（総務省統計局）

### (3) 年齢3区分別の推移

全ての市町村において、年少人口（15歳未満）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加しています。圏域全体でみると平成12年以降は老年人口が年少人口を上回っており、少子高齢化が進行しています。

表 年少人口(15歳未満)の推移

単位:人

市町村名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	増減(平成12-27年)	
					増減	増減率
十和田市	10,969	9,801	8,513	7,325	▲ 3,644	▲ 33.2%
三沢市	7,651	7,343	6,475	5,791	▲ 1,860	▲ 24.3%
野辺地町	2,228	1,916	1,612	1,425	▲ 803	▲ 36.0%
七戸町	2,676	2,317	1,949	1,604	▲ 1,072	▲ 40.1%
六戸町	1,562	1,375	1,283	1,311	▲ 251	▲ 16.1%
横浜町	750	665	563	446	▲ 304	▲ 40.5%
東北町	3,099	2,693	2,366	2,008	▲ 1,091	▲ 35.2%
六ヶ所村	1,745	1,649	1,453	1,291	▲ 454	▲ 26.0%
おいらせ町	4,193	4,126	3,811	3,438	▲ 755	▲ 18.0%
小坂町	862	796	610	477	▲ 385	▲ 44.7%
合計	35,735	32,681	28,635	25,116	▲ 10,619	▲ 29.7%

出典:国勢調査(総務省統計局)

表 生産年齢人口(15~64歳)の推移

単位:人

市町村名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	増減(平成12-27年)	
					増減	増減率
十和田市	45,991	43,971	41,171	37,028	▲ 8,963	▲ 19.5%
三沢市	28,055	27,373	26,191	24,779	▲ 3,276	▲ 11.7%
野辺地町	10,429	9,453	8,473	7,513	▲ 2,916	▲ 28.0%
七戸町	12,099	11,261	9,656	8,419	▲ 3,680	▲ 30.4%
六戸町	6,577	6,306	6,029	5,790	▲ 787	▲ 12.0%
横浜町	3,472	2,986	2,809	2,440	▲ 1,032	▲ 29.7%
東北町	12,871	12,053	11,059	9,844	▲ 3,027	▲ 23.5%
六ヶ所村	8,125	7,500	7,370	6,714	▲ 1,411	▲ 17.4%
おいらせ町	15,250	15,574	15,307	14,755	▲ 495	▲ 3.2%
小坂町	4,226	3,779	3,235	2,631	▲ 1,595	▲ 37.7%
合計	147,095	140,256	131,300	119,913	▲ 27,182	▲ 18.5%

出典:国勢調査(総務省統計局)

### (3) 年齢3区分別の推移

~~全ての市町村において、圏域全体で~~年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加しています。~~圏域全体で見ると平成12年以降はまた、~~老年人口が年少人口を上回っており、少子高齢化が進行しています。

表 年少人口(15歳未満)の推移

単位:人

市町村名	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	増減( <del>平成17-</del> 令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	9,801	8,513	7,325	6,413	▲ 3,388	▲ 34.6%
三沢市	7,343	6,475	5,791	5,005	▲ 2,338	▲ 31.8%
野辺地町	1,916	1,612	1,425	1,102	▲ 814	▲ 42.5%
七戸町	2,317	1,949	1,604	1,406	▲ 911	▲ 39.3%
六戸町	1,375	1,283	1,311	1,394	19	1.4%
横浜町	665	563	446	359	▲ 306	▲ 46.0%
東北町	2,693	2,366	2,008	1,721	▲ 972	▲ 36.1%
六ヶ所村	1,649	1,453	1,291	1,065	▲ 584	▲ 35.4%
おいらせ町	4,126	3,811	3,438	3,324	▲ 802	▲ 19.4%
小坂町	796	610	477	354	▲ 442	▲ 55.5%
合計	32,681	28,635	25,116	22,143	▲ 10,538	▲ 32.2%

出典:国勢調査(総務省統計局)

表 生産年齢人口(15～64歳)の推移

単位:人

市町村名	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	増減( <del>平成17-</del> 令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	43,971	41,171	37,028	33,475	▲ 10,496	▲ 23.9%
三沢市	27,373	26,191	24,779	23,629	▲ 3,744	▲ 13.7%
野辺地町	9,453	8,473	7,513	6,559	▲ 2,894	▲ 30.6%
七戸町	11,261	9,656	8,419	7,206	▲ 4,055	▲ 36.0%
六戸町	6,306	6,029	5,790	5,522	▲ 784	▲ 12.4%
横浜町	2,986	2,809	2,440	2,179	▲ 807	▲ 27.0%
東北町	12,053	11,059	9,844	8,403	▲ 3,650	▲ 30.3%
六ヶ所村	7,500	7,370	6,714	6,668	▲ 832	▲ 11.1%
おいらせ町	15,574	15,307	14,755	14,194	▲ 1,380	▲ 8.9%
小坂町	3,779	3,235	2,631	2,281	▲ 1,498	▲ 39.6%
合計	140,256	131,300	119,913	110,116	▲ 30,140	▲ 21.5%

出典:国勢調査(総務省統計局)



表 老年人口(65歳以上)の推移

単位:人

市町村名	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	増減(平成 12-27 年)	
					増減	増減率
十和田市	12,670	14,586	16,294	18,850	6,180	48.8%
三沢市	6,724	7,692	8,381	9,478	2,754	41.0%
野辺地町	3,335	3,847	4,166	4,565	1,230	36.9%
七戸町	4,565	4,893	5,152	5,684	1,119	24.5%
六戸町	2,325	2,749	2,921	3,231	906	39.0%
横浜町	1,286	1,446	1,507	1,649	363	28.2%
東北町	4,621	5,270	5,668	6,050	1,429	30.9%
六ヶ所村	1,979	2,126	2,235	2,427	448	22.6%
おいらせ町	3,777	4,472	5,055	5,984	2,207	58.4%
小坂町	2,080	2,249	2,209	2,225	145	7.0%
合計	43,362	49,330	53,588	60,143	16,781	38.7%

出典:国勢調査(総務省統計局)

**(4) 圏域の将来推計人口及び将来展望人口**

平成 25 年 3 月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、このまま人口が推移した場合令和 22 年の本圏域人口は、平成 22 年と比較して 59,784 人(27.9%)減少するとされています。

各市町村では、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少対策に関する各種施策を継続的に実施していくことにより人口減少を緩和し、将来展望人口を将来推計人口と比較して 14,998 人(11.0%)増加の 169,243 人を目標としています。

表 将来推計人口の推移

単位:人

市町村名	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年	令和 7 年	令和 12 年	令和 17 年	令和 22 年
十和田市	66,110	63,643	60,880	57,759	54,431	51,031	47,545
三沢市	41,258	40,115	38,928	37,524	36,052	34,508	32,891
野辺地町	14,314	13,476	12,608	11,685	10,765	9,860	8,969
七戸町	16,759	15,324	14,012	12,693	11,399	10,158	8,993
六戸町	10,241	9,838	9,349	8,829	8,306	7,788	7,260
横浜町	4,881	4,612	4,333	4,038	3,747	3,474	3,218
東北町	19,106	18,113	17,040	15,911	14,799	13,715	12,637
六ヶ所村	11,095	10,665	10,271	9,847	9,402	8,955	8,479
おいらせ町	24,211	24,206	23,856	23,347	22,735	22,032	21,239
小坂町	6,054	5,437	4,894	4,354	3,858	3,409	3,014
合計	214,029	205,429	196,171	185,987	175,494	164,930	154,245

出典:日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 老年人口(65歳以上)の推移

単位:人

市町村名	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和2年	増減( <del>平成 17</del> 令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	14,586	16,294	18,850	20,490	5,904	40.5%
三沢市	7,692	8,381	9,478	10,518	2,826	36.7%
野辺地町	3,847	4,166	4,565	4,713	866	22.5%
七戸町	4,893	5,152	5,684	5,944	1,051	21.5%
六戸町	2,749	2,921	3,231	3,531	782	28.4%
横浜町	1,446	1,507	1,649	1,691	245	16.9%
東北町	5,270	5,668	6,050	6,304	1,034	19.6%
六ヶ所村	2,126	2,235	2,427	2,634	508	23.9%
おいらせ町	4,472	5,055	5,984	6,755	2,283	51.1%
小坂町	2,249	2,209	2,225	2,145	▲ 104	▲ 4.6%
合計	49,330	53,588	60,143	64,725	15,395	31.2%

出典:国勢調査(総務省統計局)

**(4) 圏域の将来推計人口及び将来展望人口**

平成 ~~25~~ 30 年 3 月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、このまま人口が推移した場合、令和 ~~22~~ 27 年の本圏域人口は、平成 ~~22~~ 27 年と比較して ~~59,784~~ 68,415 人 (~~27.9~~33.2%) 減少するとされています。

各市町村では、第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少対策に関する各種施策を継続的に実施していくことにより人口減少を緩和し、将来展望人口を将来推計人口と比較して ~~14,998~~ 20,731 人 (~~11.0~~ 15.1%) 増加の ~~169,243~~ 158,184 人を目標としています。

表 将来推計人口の推移

単位:人

市町村名	平成 27 年	令和 2 年	令和 7 年	令和 12 年	令和 17 年	令和 22 年	令和 27 年
十和田市	63,429	60,555	57,248	53,692	49,975	46,031	41,907
三沢市	40,196	38,589	36,803	34,956	33,002	30,969	28,757
野辺地町	13,524	12,663	11,714	10,735	9,770	8,802	7,829
七戸町	15,709	14,416	13,126	11,843	10,611	9,406	8,227
六戸町	10,423	10,236	9,945	9,591	9,199	8,764	8,278
横浜町	4,535	4,193	3,836	3,479	3,146	2,824	2,517
東北町	17,955	16,789	15,545	14,329	13,120	11,896	10,657
六ヶ所村	10,536	9,976	9,382	8,791	8,199	7,583	6,955
おいらせ町	24,222	23,975	23,551	22,992	22,243	21,334	20,275
小坂町	5,339	4,669	4,029	3,454	2,931	2,458	2,051
合計	205,868	196,061	185,179	173,862	162,196	150,067	137,453

出典:日本の地域別将来推計人口(平成 30 年 3 月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 将来推計人口の推移(年少人口(15歳未満))

単位:人

市町村名	平成 22年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年
十和田市	8,517	7,244	6,172	5,459	4,826	4,395	4,054
三沢市	6,481	5,768	5,228	4,733	4,271	3,973	3,753
野辺地町	1,614	1,398	1,162	990	856	756	675
七戸町	1,949	1,545	1,315	1,090	907	773	683
六戸町	1,283	1,149	985	876	789	734	694
横浜町	563	468	390	348	311	288	269
東北町	2,366	2,011	1,689	1,458	1,281	1,153	1,055
六ヶ所村	1,454	1,377	1,283	1,161	1,058	989	942
おいらせ町	3,812	3,460	3,084	2,800	2,560	2,411	2,323
小坂町	610	513	407	361	302	260	236
合計	28,649	24,933	21,715	19,276	17,161	15,732	14,684

出典:日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 将来推計人口の推移(生産年齢人口(15~64歳))

単位:人

市町村名	平成 22年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年
十和田市	41,262	37,386	34,101	31,317	28,829	26,244	23,381
三沢市	26,337	24,949	23,472	22,235	21,036	19,478	17,730
野辺地町	8,518	7,447	6,561	5,801	5,217	4,668	4,070
七戸町	9,657	8,214	6,888	5,952	5,191	4,511	3,751
六戸町	6,034	5,469	4,894	4,453	4,145	3,778	3,385
横浜町	2,811	2,525	2,289	2,126	1,992	1,831	1,679
東北町	11,068	9,867	8,821	7,912	7,177	6,472	5,675
六ヶ所村	7,398	6,805	6,300	5,933	5,605	5,275	4,820
おいらせ町	15,334	14,744	13,938	13,376	12,830	12,090	11,158
小坂町	3,235	2,740	2,432	2,125	1,840	1,584	1,367
合計	131,654	120,146	109,696	101,230	93,862	85,931	77,016

出典:日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 将来推計人口の推移(年少人口(15歳未満))

単位:人

市町村名	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	令和 27年
十和田市	7,325	6,427	5,741	5,101	4,511	4,034	3,573
三沢市	5,791	5,211	4,650	4,188	3,762	3,400	3,036
野辺地町	1,425	1,206	1,027	884	745	620	514
七戸町	1,604	1,387	1,135	978	829	716	613
六戸町	1,312	1,298	1,279	1,192	1,101	1,022	948
横浜町	446	353	290	251	217	189	164
東北町	2,008	1,698	1,468	1,274	1,100	953	815
六ヶ所村	1,293	1,142	1,006	927	848	779	710
おいらせ町	3,438	3,109	2,880	2,679	2,478	2,315	2,135
小坂町	477	355	282	233	183	147	118
合計	25,119	22,186	19,758	17,707	15,774	14,175	12,626

出典:日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 将来推計人口の推移(生産年齢人口(15~64歳))

単位:人

市町村名	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	令和 27年
十和田市	37,172	33,228	29,948	27,049	24,208	21,009	18,114
三沢市	24,887	22,995	21,439	19,897	18,141	16,218	14,599
野辺地町	7,528	6,577	5,739	5,094	4,500	3,836	3,247
七戸町	8,419	7,013	6,070	5,244	4,562	3,770	3,119
六戸町	5,846	5,349	4,997	4,822	4,551	4,201	3,806
横浜町	2,440	2,149	1,933	1,717	1,492	1,276	1,089
東北町	9,872	8,664	7,598	6,754	5,974	5,130	4,470
六ヶ所村	6,801	6,186	5,684	5,230	4,815	4,303	3,862
おいらせ町	14,782	13,941	13,304	12,704	11,882	10,808	9,948
小坂町	2,634	2,209	1,831	1,470	1,179	917	729
合計	120,381	108,311	98,543	89,981	81,304	71,468	62,983

出典:日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 将来推計人口の推移(老年人口(65歳以上))

単位:人

市町村名	平成 22年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年
十和田市	16,331	19,013	20,607	20,983	20,776	20,392	20,110
三沢市	8,440	9,398	10,228	10,556	10,745	11,057	11,408
野辺地町	4,183	4,631	4,885	4,894	4,692	4,436	4,224
七戸町	5,153	5,565	5,809	5,651	5,301	4,874	4,559
六戸町	2,923	3,220	3,470	3,500	3,372	3,276	3,181
横浜町	1,507	1,619	1,654	1,564	1,444	1,355	1,270
東北町	5,672	6,235	6,530	6,541	6,341	6,090	5,907
六ヶ所村	2,243	2,483	2,688	2,753	2,739	2,691	2,717
おいらせ町	5,064	6,002	6,834	7,171	7,345	7,531	7,758
小坂町	2,209	2,184	2,055	1,868	1,716	1,565	1,411
合計	53,725	60,350	64,760	65,481	64,471	63,267	62,545

出典:日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 中長期的な将来展望人口

単位:人

市町村名	平成 22年	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年
十和田市	66,111	63,891	61,452	58,911	56,407	54,051	51,803
三沢市	41,258	40,197	39,115	38,050	37,493	36,892	36,235
野辺地町	14,314	13,521	12,664	11,851	11,111	10,451	9,852
七戸町	16,759	15,534	14,426	13,308	12,196	11,117	10,113
六戸町	10,234	9,863	9,431	8,980	8,540	8,117	7,715
横浜町	4,881	4,518	4,312	4,133	3,965	3,798	3,649
東北町	19,103	18,190	17,216	16,203	15,231	14,319	13,458
六ヶ所村	11,091	10,656	10,587	10,478	10,294	10,104	9,890
おいらせ町	24,211	24,278	24,140	23,855	23,622	23,317	22,942
小坂町	6,054	5,499	5,034	4,606	4,220	3,879	3,586
合計	214,016	206,147	198,377	190,375	183,079	176,045	169,243

出典:各市町村人口ビジョン

表 将来推計人口の推移(老年人口(65歳以上))

単位:人

市町村名	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	令和 27年
十和田市	18,932	20,900	21,559	21,542	21,256	20,988	20,220
三沢市	9,518	10,383	10,714	10,871	11,099	11,351	11,122
野辺地町	4,571	4,880	4,948	4,757	4,525	4,346	4,068
七戸町	5,686	6,016	5,921	5,621	5,220	4,920	4,495
六戸町	3,265	3,589	3,669	3,577	3,547	3,541	3,524
横浜町	1,649	1,691	1,613	1,511	1,437	1,359	1,264
東北町	6,075	6,427	6,479	6,301	6,046	5,813	5,372
六ヶ所村	2,442	2,648	2,692	2,634	2,536	2,501	2,383
おいらせ町	6,002	6,925	7,367	7,609	7,883	8,211	8,192
小坂町	2,228	2,105	1,916	1,751	1,569	1,394	1,204
合計	60,368	65,564	66,878	66,174	65,118	64,424	61,844

出典:日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

表 中長期的な将来展望人口

単位:人

市町村名	平成 27年	令和 2年	令和 7年	令和 12年	令和 17年	令和 22年	令和 27年
十和田市	63,429	61,073	58,534	56,174	53,897	51,653	49,524
三沢市	40,196	39,022	37,561	36,256	35,235	33,954	32,565
野辺地町	13,521	12,664	11,851	11,111	10,451	9,852	9,260
七戸町	15,709	14,795	13,788	12,729	11,709	10,682	9,746
六戸町	10,423	10,213	9,927	9,590	9,238	8,867	8,336
横浜町	4,535	4,214	3,896	3,584	3,302	3,041	2,808
東北町	17,955	16,839	15,703	14,638	13,640	12,670	11,782
六ヶ所村	10,536	10,003	9,885	9,740	9,530	9,277	9,017
おいらせ町	24,222	24,131	23,959	23,725	23,291	22,632	21,816
小坂町	5,499	5,034	4,606	4,220	3,879	3,586	3,330
合計	206,025	197,988	189,710	181,767	174,172	166,214	158,184

出典:各市町村人口ビジョン

### 3. 産業別就業者数の推移

※ 平成17年以前の各市町村の数値は、合併前の市町村の数値を合算したものの。

※ 増減率は、小数点第2位を四捨五入。

全ての市町村において、第1次産業就業者数及び第2次産業就業者数が横ばい又は減少傾向にあります。第3次産業就業者数は、六戸町、六ヶ所村及びおいらせ町において増加していますが、その他の市町村では、横ばい又は減少傾向にあります。

表 第1次産業就業者数の推移

単位:人

市町村名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	増減(平成12-27年)	
					増減	増減率
十和田市	5,133	4,740	3,657	3,767	▲ 1,366	▲ 26.6%
三沢市	1,809	1,652	1,496	1,344	▲ 465	▲ 25.7%
野辺地町	626	595	546	492	▲ 134	▲ 21.4%
七戸町	2,115	1,857	1,667	1,480	▲ 635	▲ 30.0%
六戸町	1,562	1,414	1,150	1,105	▲ 457	▲ 29.3%
横浜町	788	738	726	753	▲ 35	▲ 4.4%
東北町	2,891	2,714	2,503	2,268	▲ 623	▲ 21.5%
六ヶ所村	957	930	872	787	▲ 170	▲ 17.8%
おいらせ町	1,463	1,401	1,208	1,119	▲ 344	▲ 23.5%
小坂町	350	306	217	200	▲ 150	▲ 42.9%
合計	17,694	16,347	14,042	13,315	▲ 4,379	▲ 24.7%

出典:国勢調査(総務省統計局)

表 第2次産業就業者数の推移

単位:人

市町村名	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	増減(平成12-27年)	
					増減	増減率
十和田市	9,919	8,467	6,898	6,821	▲ 3,098	▲ 31.2%
三沢市	5,519	4,459	4,014	4,078	▲ 1,441	▲ 26.1%
野辺地町	2,519	1,950	1,702	1,609	▲ 910	▲ 36.1%
七戸町	2,844	2,252	1,926	1,783	▲ 1,061	▲ 37.3%
六戸町	1,694	1,479	1,348	1,335	▲ 359	▲ 21.2%
横浜町	926	731	681	580	▲ 346	▲ 37.4%
東北町	3,080	2,412	2,107	2,087	▲ 993	▲ 32.2%
六ヶ所村	3,073	2,562	2,443	2,346	▲ 727	▲ 23.7%
おいらせ町	4,375	3,666	3,435	3,387	▲ 988	▲ 22.6%
小坂町	1,325	1,065	864	713	▲ 612	▲ 46.2%
合計	35,274	29,043	25,418	24,739	▲ 10,535	▲ 29.9%

出典:国勢調査(総務省統計局)

### 3. 産業別就業者数の推移

※ 平成17年以前の各市町村の数値は、合併前の市町村の数値を合算したものの。

※ 増減は、平成17年と令和2年の比較。増減率は、小数点第2位を四捨五入。

全ての市町村において、第1次産業就業者数及び第2次産業就業者数が横ばい又は減少傾向にあります。第3次産業就業者数は、六戸町、六ヶ所村及びおいらせ町において増加していましたが傾向にあり、その他の市町村では、横ばい又は減少傾向にあります。

表 第1次産業就業者数の推移

単位:人

市町村名	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	増減(平成17-令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	4,740	3,657	3,767	3,422	▲ 1,318	▲ 27.8%
三沢市	1,652	1,496	1,344	1,296	▲ 356	▲ 21.5%
野辺地町	595	546	492	444	▲ 151	▲ 25.4%
七戸町	1,857	1,667	1,480	1,538	▲ 319	▲ 17.2%
六戸町	1,414	1,150	1,105	1,021	▲ 393	▲ 27.8%
横浜町	738	726	753	664	▲ 74	▲ 10.0%
東北町	2,714	2,503	2,268	2,080	▲ 634	▲ 23.4%
六ヶ所村	930	872	787	686	▲ 244	▲ 26.2%
おいらせ町	1,401	1,208	1,119	1,015	▲ 386	▲ 27.6%
小坂町	306	217	200	167	▲ 139	▲ 45.4%
合計	16,347	14,042	13,315	12,333	▲ 4,014	▲ 24.6%

出典:国勢調査(総務省統計局)

表 第2次産業就業者数の推移

単位:人

市町村名	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	増減(平成17-令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	8,467	6,898	6,821	6,518	▲ 1,949	▲ 23.0%
三沢市	4,459	4,014	4,078	4,471	12	0.3%
野辺地町	1,950	1,702	1,609	1,526	▲ 424	▲ 21.7%
七戸町	2,252	1,926	1,783	1,669	▲ 583	▲ 25.9%
六戸町	1,479	1,348	1,335	1,296	▲ 183	▲ 12.4%
横浜町	731	681	580	650	▲ 81	▲ 11.1%
東北町	2,412	2,107	2,087	1,964	▲ 448	▲ 18.6%
六ヶ所村	2,562	2,443	2,346	2,669	107	4.2%
おいらせ町	3,666	3,435	3,387	3,403	▲ 263	▲ 7.2%
小坂町	1,065	864	713	696	▲ 369	▲ 34.6%
合計	29,043	25,418	24,739	24,862	▲ 4,181	▲ 14.4%

出典:国勢調査(総務省統計局)



表 第3次産業就業者数の推移

単位:人

市町村名	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	増減(平成 12-27 年)	
					増減	増減率
十和田市	21,077	21,468	19,463	19,263	▲ 1,814	▲ 8.6%
三沢市	14,497	14,439	13,601	13,225	▲ 1,272	▲ 8.8%
野辺地町	4,767	4,631	4,206	4,133	▲ 634	▲ 13.3%
七戸町	4,794	4,966	4,601	4,586	▲ 208	▲ 4.3%
六戸町	2,425	2,635	2,647	2,904	479	19.8%
横浜町	1,118	1,044	1,069	947	▲ 171	▲ 15.3%
東北町	4,720	4,880	4,728	4,567	▲ 153	▲ 3.2%
六ヶ所村	2,836	2,678	2,926	2,931	95	3.3%
おいらせ町	6,001	6,984	7,008	7,204	1,203	20.0%
小坂町	1,603	1,717	1,533	1,482	▲ 121	▲ 7.5%
合計	63,838	65,442	61,782	61,242	▲ 2,596	▲ 4.1%

出典:国勢調査(総務省統計局)

#### 4. 都市機能の集積状況

十和田市、三沢市における公共施設等による各種サービス機能、医療機能、商業・娯楽機能その他の行政及び民間分野に係る都市機能の集積状況は、概ね次のとおりです。

分野	都市機能	十和田市	三沢市
行政機関	国の機関	青森地方裁判所十和田支部、青森家庭裁判所十和田支部、十和田簡易裁判所、青森地方法務局十和田支局、青森地方検察庁十和田支部・十和田区検察庁、十和田労働基準監督署、三沢公共職業安定所十和田出張所、東北地方整備局青森河川国道事務所十和田国道維持出張所、十和田税務署、東北森林管理局三八上北森林管理署	三沢公共職業安定所、航空自衛隊三沢基地、東北防衛局三沢防衛事務所、独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構三沢支部、国土交通省東京航空局三沢空港事務所、東北地方整備局高瀬川河川事務所小川原湖出張所
	県の機関	十和田食肉衛生検査所、十和田警察署、上北地域県民局	三沢警察署、上北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室三沢分室、十和田食肉衛生検査所三沢支所
医療	公的医療機関	十和田市立中央病院、十和田市立十和田湖診療所	三沢市立三沢病院
	初期救急医療機関	休日当番医(休日のみ) ※市内開業医 27 機関の当番制で休日の日中診療を行っている。	休日当番医(休日のみ) ※市内開業医他 20 機関の当番制で休日の日中診療を行っている。
	二次救急医療機関	十和田市立中央病院、十和田第一病院	三沢市立三沢病院
	市内医療機関	病院 5 機関、診療所 33 機関、歯科診療所 24 機関	病院 3 機関、診療所 15 機関、歯科診療所 17 機関

表 第3次産業就業者数の推移

単位:人

市町村名	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和2年	増減(平成17-令和2年)	
					増減	増減率
十和田市	21,468	19,463	19,263	18,681	▲ 2,787	▲ 13.0%
三沢市	14,439	13,601	13,225	13,053	▲ 1,386	▲ 9.6%
野辺地町	4,631	4,206	4,133	3,903	▲ 728	▲ 15.7%
七戸町	4,966	4,601	4,586	4,317	▲ 649	▲ 13.1%
六戸町	2,635	2,647	2,904	3,090	455	17.3%
横浜町	1,044	1,069	947	941	▲ 103	▲ 9.9%
東北町	4,880	4,728	4,567	4,580	▲ 300	▲ 6.1%
六ヶ所村	2,678	2,926	2,931	3,068	390	14.6%
おいらせ町	6,984	7,008	7,204	7,734	750	10.7%
小坂町	1,717	1,533	1,482	1,338	▲ 379	▲ 22.1%
合計	65,442	61,782	61,242	60,705	▲ 4,737	▲ 7.2%

出典:国勢調査(総務省統計局)

#### 4. 都市機能の集積状況

十和田市、三沢市における公共施設等による各種サービス機能、医療機能、商業・娯楽機能その他の行政及び民間分野に係る都市機能の集積状況は、概ね次のとおりです。

分野	都市機能	十和田市	三沢市
国・県の出先機関	国の機関	青森地方裁判所十和田支部、青森家庭裁判所十和田支部、十和田簡易裁判所、青森地方法務局十和田支局、青森地方検察庁十和田支部・十和田区検察庁、青森労働局十和田労働基準監督署、三沢公共職業安定所十和田出張所、東北地方整備局青森河川国道事務所十和田国道維持出張所、 <b>仙台国税局十和田税務署</b> 、東北森林管理局三八上北森林管理署、 <b>東北地方環境事務所十和田八幡平国立公園管理事務所</b>	青森労働局三沢公共職業安定所、航空自衛隊三沢基地、東北防衛局三沢防衛事務所、独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構三沢支部、東京航空局三沢空港事務所、東北地方整備局高瀬川河川事務所小川原湖出張所
	県の機関	十和田警察署、上北地域県民局、十和田食肉衛生検査所	三沢警察署、上北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室三沢分室、十和田食肉衛生検査所三沢支所
医療	公的医療機関	十和田市立中央病院、十和田市立十和田湖診療所	三沢市立三沢病院
	初期救急医療機関	休日当番医(休日のみ) ※市内開業医 25 機関の当番制で休日の日中診療を行っている。	休日当番医(休日のみ) ※市内開業医他 19 機関の当番制で休日の日中診療を行っている。
	二次救急医療機関	十和田市立中央病院、十和田第一病院	三沢市立三沢病院
	市内医療機関	病院 5 機関、診療所 29 機関、歯科診療所 21 機関	病院 3 機関、診療所 14 機関、歯科診療所 14 機関

福祉	老人福祉施設等	短期入所(療養介護)4ヶ所、小規模多機能型共同生活介護1ヶ所、軽費老人ホーム(ケアハウス)1ヶ所、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)12ヶ所、通所介護(デイサービスセンター)20ヶ所、短期入所(生活介護)6ヶ所、有料老人ホーム11ヶ所、特別養護老人ホーム4ヶ所、地域包括支援センター1ヶ所	短期入所(療養介護)1ヶ所、小規模多機能型共同生活介護4ヶ所、老人福祉センター1ヶ所、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)6ヶ所、通所介護(デイサービスセンター)14ヶ所、短期入所(生活介護)6ヶ所、有料老人ホーム5ヶ所、特別養護老人ホーム6ヶ所、地域包括支援センター1ヶ所
	障害者福祉施設等	自立訓練(機能訓練・生活訓練・宿泊型)5ヶ所、福祉入所支援1ヶ所、共同生活援助8ヶ所、同行援護2ヶ所、行動援護1ヶ所、相談支援6ヶ所、就労継続支援16ヶ所、就労移行支援5ヶ所、短期入所2ヶ所、生活介護4ヶ所、居宅介護17ヶ所	自立訓練(機能訓練・生活訓練・宿泊型)1ヶ所、共同生活援助3ヶ所、同行援護2ヶ所、行動援護3ヶ所、相談支援3ヶ所、就労継続支援8ヶ所、就労移行支援2ヶ所、生活介護3ヶ所、居宅介護4ヶ所
	子育て施設	保育所等訪問支援1ヶ所、放課後等デイサービス7ヶ所、児童発達支援1ヶ所、児童養護施設1ヶ所、保育所25ヶ所、認定こども園7園、ファミリーサポートセンター1ヶ所	放課後等デイサービス4ヶ所、児童発達支援4ヶ所、乳児院1ヶ所、児童館9ヶ所、保育所11ヶ所、認定こども園7園、ファミリーサポートセンター1ヶ所
教育	大学	北里大学獣医学部	三沢基地内大学(メリーランド大学、トロイ大学大学院)
	高等学校	三本木高等学校、十和田西高等学校、三本木農業高等学校、十和田工業高等学校	三沢高等学校、三沢商業高等学校、三沢基地内高等学校1校
	小・中学校	小学校16校、中学校10校	小学校7校、中学校5校、三沢基地内小学校1校、三沢基地内中学校1校
	幼稚園	幼稚園2園	幼稚園3園 三沢基地内幼稚園1園
文化・運動等施設	文化・社会教育施設等	十和田市民文化センター・生涯学習センター、十和田市民図書館、郷土館、十和田湖民俗資料館、南公民館、東公民館、十和田湖公民館、十和田市農村交流施設 沢田悠学館、勤労青少年ホーム、市民交流プラザタワー	三沢市立中央公民館(三沢市公会堂)、三沢市立図書館、三沢市先人記念館、三沢市歴史民俗資料館、寺山修司記念館、三沢市勤労青少年ホーム、三沢市働く婦人の家、三沢市国際交流教育センター
	健康・運動施設	十和田市総合体育センター、十和田市志道館、十和田市南運動広場、十和田市民プール、十和田市B&G海洋センター、十和田市サン・スポーツランド、十和田市アネックススポーツランド、十和田市野球場、十和田市陸上競技場、十和田市庭球場、十和田市相撲場、十和田市若葉球技場、十和田市高森山パークゴルフ場、十和田市高森山人工芝多目的グラウンド、十和田市高森山球技場、十和田湖総合運動公園(野球場、陸上競技場、テニスコート、プール)、十和田湖温泉スキー場、八甲田パノラマパークゴルフ場、十和田市農村集落多目的利用施設おらんどむ、十和田市林業者等健康増進用広場、市民の家	三沢市総合体育館(大体育場、武道場、弓道場、卓球室)、三沢市武道館(柔道場、剣道場、相撲場、競技場)、三沢市屋内温水プール、滝の沢市民プール、三沢アイスアリーナ(スケートリンク、トレーニングルーム)、三沢市南山屋外運動場(サッカー、ソフトボール、ゲートボール等多目的運動場)、三沢市南山テニスコート、三沢市民運動広場(野球場)、三沢市民の森総合運動公園(野球場、陸上競技場、ホッケー場、テニスコート、屋内ゲートボール場)、三沢市国際交流スポーツセンター(メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、多目的運動室、ランニングコース)
観光等施設	観光・レクリエーション施設	道の駅奥入瀬ろまんパーク(観光物産館・奥入瀬麦酒館・ステーキハウス味噌館・味楽工房)、奥入瀬湧水館、奥入瀬溪流館、道の駅とわだ(とわだびあ・匠工房)、十和田市馬事公苑、宇樽部キャンプ場、十和田市現代美術館、十和田市観光物産センター、十和田湖観光交流センターぷらっと	青森県立三沢航空科学館、大空ひろば、斗南藩記念観光村、小川原湖観光センター「レークピア」、小川原湖畔コテージ、小川原湖畔キャンプ場、三沢オートキャンプ場、三沢市民の森温泉浴場、三沢漁港海水浴場「ビードルビーチ」、星野リゾート青森屋

福 社	老人福祉施設等	短期入所(療養介護)4ヶ所、小規模多機能型居宅介護 2ヶ所、軽費老人ホーム(ケアハウス)1ヶ所、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)11ヶ所、通所介護(デイサービスセンター)18ヶ所、短期入所(生活介護)6ヶ所、有料老人ホーム 12ヶ所、特別養護老人ホーム4ヶ所、地域包括支援センター3ヶ所	短期入所(療養介護)1ヶ所、小規模多機能型居宅介護4ヶ所、老人福祉センター1ヶ所、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)6ヶ所、通所介護(デイサービスセンター)12ヶ所、短期入所(生活介護)7ヶ所、有料老人ホーム7ヶ所、特別養護老人ホーム7ヶ所、地域包括支援センター1ヶ所
	障害者福祉施設等	自立訓練(機能訓練・生活訓練・宿泊型)2ヶ所、施設入所支援 1ヶ所、共同生活援助 10ヶ所、同行援護 1ヶ所、行動援護 1ヶ所、相談支援 5ヶ所、就労継続支援 18ヶ所、就労移行支援 1ヶ所、短期入所 2ヶ所、生活介護 6ヶ所、居宅介護 13ヶ所	重度訪問介護 5ヶ所、共同生活援助 4ヶ所、同行援護 3ヶ所、行動援護 3ヶ所、相談支援 4ヶ所、就労継続支援 9ヶ所、就労定着支援 1ヶ所、就労移行支援 1ヶ所、短期入所 1ヶ所、生活介護 4ヶ所、居宅介護 5ヶ所
	子育て施設	保育所等訪問支援 2ヶ所、放課後等デイサービス 10ヶ所、児童発達支援 2ヶ所、児童養護施設 1ヶ所、保育所 17ヶ所、認定こども園 10園、ファミリーサポートセンター1ヶ所	放課後等デイサービス 8ヶ所、児童発達支援 6ヶ所、乳児院 1ヶ所、児童館 10ヶ所、保育所 5ヶ所、認定こども園 13園、ファミリーサポートセンター1ヶ所
教 育	大学	北里大学獣医学部	三沢基地内大学(メリーランド大学、トロイ大学院、エンブリーリドル航空大学)
	高等学校	三本木高等学校、三本木農業恵拓高等学校、十和田工業高等学校	三沢高等学校、三沢商業高等学校、三沢基地内高等学校1校
	小・中学校	小学校 15校、中学校 9校	小学校 7校、中学校 5校、三沢基地内小学校1校、三沢基地内中学校1校
	幼稚園	幼稚園 2園	幼稚園 3園 三沢基地内幼稚園 1園
文化・運動等施設	文化・社会教育施設等	十和田市民文化センター・生涯学習センター、十和田市民図書館、十和田市郷土館、十和田湖民俗資料館、南コミュニティセンター、東コミュニティセンター、西コミュニティセンター、十和田市農村交流施設沢田悠学館、勤労青少年ホーム、市民交流プラザ「トワレ」	三沢市立中央公民館(三沢市公会堂)、三沢市立図書館、三沢市先人記念館、三沢市歴史民俗資料館、寺山修司記念館、三沢市勤労青少年ホーム、三沢市働く婦人の家、三沢市国際交流教育センター
	健康・運動施設	十和田市総合体育センター、十和田市志道館、十和田市南運動広場、十和田市民プール、十和田市B&G海洋センター、十和田市サン・スポーツランド、十和田市アネックススポーツランド、十和田市野球場、十和田市陸上競技場、十和田市庭球場、十和田市相撲場、十和田市若葉球技場、十和田市高森山パークゴルフ場、十和田市高森山人工芝多目的グラウンド、十和田市高森山球技場、十和田湖総合運動公園(野球場、陸上競技場、テニスコート、プール)、奥入瀬溪流温泉スキー場、八甲田パノラマパークゴルフ場、十和田市農村集落多目的利用施設「おらんどーむ」、市民の家、十和田市屋内グラウンド「こまかいどーむ」	三沢市総合体育館(弓道場、卓球室)、三沢市武道館(柔道場、剣道場、相撲場、競技場)、三沢市屋内温水プール、三沢アイスアリーナ(スケートリンク、トレーニングルーム)、三沢市南山屋外運動場(サッカー、ソフトボール、ゲートボール等多目的運動場)、三沢市南山テニスコート、三沢市民運動広場(野球場)、三沢市民の森総合運動公園(野球場、陸上競技場、ホッケー場、テニスコート、屋内ゲートボール場)、三沢市国際交流スポーツセンター(メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、多目的運動室、ランニングコース)
観光等施設	観光・レクリエーション施設	道の駅奥入瀬ろまんパーク(観光物産館・奥入瀬麦酒館・ステーキハウス味噌館・味噌工房)、奥入瀬湧水館、奥入瀬溪流館、道の駅とわだ(とわだびあ・匠工房)、十和田市馬事公苑、十和田市宇樽部キャンプ場、十和田市現代美術館、十和田市観光物産センター、十和田湖観光交流センター「ぶらっと」、十和田市地域交流センター「とわふる」	青森県立三沢航空科学館、大空ひろば、斗南藩記念観光村、小川原湖観光センター「レークピア」、小川原湖畔コテージ、小川原湖畔キャンプ場、三沢オートキャンプ場、三沢市民の森温泉浴場、三沢漁港海水浴場「ビートルビーチ」、星野リゾート青森屋、三沢駅前プラザ「みーくる」

交 通	航空		三沢空港(日本航空 三沢・東京線 3 便、三沢・大阪線 1 便、三沢・札幌線 1 便)
	鉄道		青い森鉄道三沢駅
	都市間バス	十和田⇄東京	三沢⇄東京
	路線バス	十和田観光電鉄株式会社 35 系統 南部バス株式会社 1 系統 J Rバス東北株式会社 2 系統	十和田観光電鉄株式会社 39 系統 (うち三沢市コミュニティバス 14 系統)
	国道	国道 4 号、国道 45 号、国道 102 号、国道 103 号、国道 394 号、国道 454 号	国道 338 号
金 融	銀行等	青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、青森県信用組合、東北労働金庫、十和田おいらせ農業協同組合、郵便局 14 局・簡易郵便局 2 局	青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、青森県信用組合、おいらせ農業協同組合、三沢市漁業協同組合、郵便局 6 局・簡易郵便局 1 局
商 業	大規模小売店舗	十和田複合商業施設、コメリパワー十和田店、テックランド十和田店、十和田元町ショッピングセンター、イオン十和田ショッピングセンター、アクロスプラザ十和田南、薬王堂十和田元町店、スーパードラッグアサヒ十和田店、十和田南ショッピングセンター、十和田ファッションモール、ヤマヨ十和田店、スーパーカケモ西金崎店、サンワドー十和田店リビング館、パワーズU十和田店、ナナオ家具十和田店、田清商店	(仮称) マエダ三沢モール、南町複合商業施設、テックランド三沢店、マルホンカウボーイ三沢店、Sky Plaza MISAWA、マックスバリュ三沢大町店、三沢堀口ショッピングセンター、スーパードラッグアサヒ三沢店、アクロス三沢、三沢ショッピングセンター、インテリアハウスノガワ、サンデー三沢店、コジマビル、ユニバース三沢松園町店、(株)丸中
産業	水産物流通拠点		三沢漁港

交 通	航空		三沢空港(日本航空 三沢・東京線 4 便、三沢・大阪線 1 便、三沢・札幌線 1 便)
	鉄道		青い森鉄道三沢駅
	都市間バス	十和田⇄東京	三沢⇄東京
	路線バス	十和田観光電鉄株式会社 45 系統 岩手県北自動車株式会社南部支社 1 系統 J R バス東北株式会社 2 系統 十和田市コミュニティバス 3 系統	十和田観光電鉄株式会社 35 系統 (うち三沢市コミュニティバス 15 系統)
	国道	国道 4 号、国道 45 号、国道 102 号、国道 103 号、国道 394 号、国道 454 号	国道 338 号
金 融	銀行等	青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、青森県信用組合、東北労働金庫、十和田おいらせ農業協同組合、郵便局 14 局・簡易郵便局 1 局	青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、青森県信用組合、おいらせ農業協同組合、三沢市漁業協同組合、郵便局 6 局・簡易郵便局 1 局
商 業	大規模小売店舗	十和田複合商業施設、コメリパワー十和田店、テックランド十和田店、十和田元町ショッピングセンター、イオン十和田ショッピングセンター、アクロスプラザ十和田南、薬王堂十和田元町店、スーパードラッグアサヒ十和田店、十和田南ショッピングセンター、十和田ファッションモール、ヤマヨ十和田店、スーパーカケモ西金崎店、サンワドー十和田店リビング館、パワーズU十和田店、ナナオ家具十和田店、田清商店、米沢家具センター、十和田西複合商業施設、スーパーセンタートライアル十和田店、ニトリ十和田店、ハッピー・ドラッグ元町西店、マエダストア元町西店	よこまちストア三沢店、マエダ三沢モール、南町複合商業施設、テックランド三沢店、Sky Plaza MISAWA、マックスバリュ三沢大町店、三沢堀口ショッピングセンター、スーパードラッグアサヒ三沢店、アクロス三沢、三沢ショッピングセンター、インテリアハウスノガワ、サンデー三沢店、ユニバース三沢松園町店
産業	水産物流通拠点		三沢漁港

### 第3章 圏域のこれまでの取組と課題

#### 1. 圏域のこれまでの取り組み

当圏域では、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化を目指し、平成25年度から29年度まで以下の31事業を進めてまいりました。

31事業のうち27事業が実施済となっており、未実施の4事業についても効果的な実施方法について検討を進めています。

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
上十三地域連携パス・ネットワーク協議会事業	地域連携パスの活用による患者紹介等、病院等の機能分担による地域医療ネットワークの充実に取り組む。	実施中	現状の体制を維持
十和田湖診療所運営事業	十和田湖畔地域における一次医療を担う十和田湖診療所の管理運営を行う。	実施中	現状の体制を維持
病児・病後児保育事業	病児・病後児保育サービスの需要を確認しながら広域利用の受入体制の確保に努め、事業を実施する。	実施中	実施市町村以外のサービス利用者数 現状値(H27) 466人 目標値(H29) 470人
ファミリーサポートセンター事業の研究・検討	事業の対象を関係市町村の住民に拡大すること等、効果的な事業実施方法について研究・検討する。	検討中	広域利用実施体制の整備
保育所広域入所に関する連携	十和田湖畔地域における保育所の広域入所に関する事務を適切に行う。	実施中	現状の体制を維持
介護認定審査会事業	介護認定審査会業務を上北地方教育・福祉事務組合で行う。	実施中	現状の体制を維持
障害者介護給付等審査会事業	障害者介護給付等審査会業務を上北地方教育・福祉事務組合で行う。	実施中	現状の体制を維持
(第2次で追加)			
(第2次で追加)			
図書館相互利用促進事業	上十三圏域の図書館において、同一基準での所蔵資料の館外貸出を行う。また、各図書館ホームページを相互リンクする。	実施中	相互利用件数 現状値(H27) 307件 目標値(H29) 410件



## 第3章 圏域のこれまでの取組と課題

### 1. 圏域のこれまでの取り組み

当圏域では、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化を目指し、平成30年度から令和4年度まで以下の34事業を進めてまいりました。

34事業のうち33事業が実施中であり、未実施の1事業については、同種の事業と統合し、合理化を図ることとしています。

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
上十三地域連携パス・ネットワーク協議会事業	地域連携パスの活用による患者紹介等、病院等の機能分担による地域医療ネットワークの充実に取り組む。	実施中	現状の体制を維持
十和田湖診療所運営事業	十和田湖畔地域における一次医療を担う十和田湖診療所の管理運営を行う。	実施中	診療日数 現状値 2日/週 目標値 2日/週
病児・病後児保育事業	病児・病後児保育サービスの需要を確認しながら広域利用の受入体制の確保に努め、事業を実施する。	実施中	実施市町村以外のサービス利用者数 現状値 272人/年 目標値 280人/年
ファミリーサポートセンター事業の研究・検討	事業の対象を関係市町村の住民に拡大すること等、効果的な事業実施方法について研究・検討する。	実施中	広域利用実施体制の整備
保育所広域入所に関する連携	十和田湖畔地域における保育所の広域入所に関する事務を適切に行う。	実施中	保育所広域入所の届出があった際の受け入れ率 現状値 - (届出なし) 目標値 100%
介護認定審査会事業	介護認定審査会業務を上北地方教育・福祉事務組合で行う。	実施中	現状の体制を維持
障害者介護給付等審査会事業	障害者介護給付等審査会業務を上北地方教育・福祉事務組合で行う。	実施中	現状の体制を維持
権利擁護支援事業	成年後見制度の利用促進に係る連絡会を設置し、関係機関との連携を強化する。	実施中	市民後見人登録者数 現状値 5人 目標値 15人
医療的ケア児支援連携推進事業	医療的ケア児の支援のための協議の場を設ける。また、医療的ケア児に対するコーディネーター配置について検討する。	実施中	医療的ケア児支援のための協議の場の開催数 現状値 2回/年 目標値 3回/年
図書館相互利用促進事業	上十三圏域の図書館において、同一基準での所蔵資料の相互貸出を行う。また、各図書館ホームページを相互リンクする。	実施中	相互利用件数 現状値 168件/年 目標値 540件/年



事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
図書館蔵書充実事業	圏域の各図書館において幅広い蔵書の充実に努める。	実施中	図書館利用者数 現状値(H27) 155,357人 目標値(H29) 161,100人
生涯学習情報提供事業	圏域の各市町村が実施する各種講座等について、情報収集、共有及び発信する体制について検討する。	検討中	情報共有体制の構築
英語教育推進事業	英語指導法等に関する研究会や生徒の英語スピーチコンテストを開催する。また、英語教育カリキュラム等に関する調査・研究を行う。	実施中	小中学校英語研修講座講演会参加者数 現状値(H28) 21人 目標値(H29) 30人 英語活動科授業研究会参加者数 現状値(H28) 30人 目標値(H29) 40人
教育事務の委託	十和田湖畔地域における教育事務の委託に関する事務を適切に行う。	実施中	現状の体制を維持
広域観光会議の開催	上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会を設置、開催する。	実施中	圏域市町村の観光入込客数 現状値(H26)7,315,412人 目標値(H29)7,700,000人
広域観光振興推進事業	上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会において圏域観光ガイドブックを発行する。また、ホームページ等において、圏域の魅力や各種イベントを県内外へPRする。	実施中	圏域市町村の観光入込客数 現状値(H26)7,315,412人 目標値(H29)7,700,000人
十和田湖観光誘客事業	十和田湖畔地区における観光誘客策の検討、イベント開催及び情報発信等を行う。	実施中	十和田湖への観光入込客数 現状値(H26)1,628,809人 目標値(H29)1,700,000人
特産品の販路拡大	圏域内の各自治体で実施する物産展等に定住自立圏のブースを設け、PRを含めた物販を行う。	実施中	販路拡大イベントの開催数 現状値(H28) 1回 目標値(H29) 1回 販路拡大イベントの来場者数 現状値(H28) 26,000人 目標値(H29) 26,000人

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
図書館蔵書充実事業	圏域の各図書館において蔵書の充実に努め、相互利用を推進する。	実施中	図書館利用者数 現状値 84,599 人/年 目標値 163,120 人/年
生涯学習情報提供事業	圏域の各市町村が実施する各種講座等について、情報収集、共有及び発信する体制について検討する。	実施中	ホームページで随時情報提供
英語教育推進事業	英語指導法等に関する研究会や生徒の英語スピーチコンテストを開催する。また、英語教育カリキュラム等に関する調査・研究を行う。	実施中	小中学校英語研修講座講演会参加者数 現状値 30 人 目標値 35 人 英語活動科授業研究会参加者数 現状値 60 人/年 目標値 50 人/年
教育事務の委託	十和田湖畔地域における教育事務の委託に関する事務を適切に行う。	実施中	教育事務の委託の届出があった際の受け入れ率 現状値 — (届出なし) 目標値 100%
(第2次で削除)			
広域観光振興推進事業	上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会において、広域的な観光情報の発信や周遊観光の促進につながる施策を実施する。	実施中	圏域市町村の観光入込客数 現状値 5,307,828 人/年 目標値 8,300,000 人/年
十和田湖観光誘客事業	十和田湖畔地区における観光振興策の検討、イベント開催及び情報発信等を行う。	実施中	十和田湖への観光入込客数 現状値 619,564 人/年 目標値 1,170,000 人/年
特産品の販路拡大	圏域の特産品に関する情報を共有し。販路拡大を図る。また、地域ブランド化を推進する。	実施中	特産品開発セミナー参加者数 現状値 11 人/回 目標値 80 人/回 販路拡大イベントの来場者数 現状値 — (中止) 目標値 61,600 人/年 販路拡大イベントの売上 現状値 — (中止) 目標値 11,220 千円/年

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
防災体制整備・地域防災計画等の情報共有等	中心市が行う総合防災訓練に関係市町村防災担当者を招き見学会と情報交換を行う。また、圏域内の防災計画等の情報共有を行う。	実施中	現状の体制を維持
災害時の消防出動相互応援事業	消防応援協定に基づき災害出動を行う。	実施中	現状の体制を維持
消防指令業務共同運用等事業	平成 28 年度から共同指令センターの運用を開始する。	実施中	現状の体制を維持
簡易水道の共同利用	平成 27 年度から十和田市から小坂町へ県境を越えて送水を開始する。	実施中	現状の体制を維持
消費生活相談事業	中心市が設置する消費生活センターに関係市町村の消費生活相談事務を集約する。	実施中	相談件数 現状値(H27) 473 件 目標値(H29) 650 件
公共交通ネットワーク会議の開催	圏域公共交通担当で構成する公共交通ネットワーク会議を開催し、情報交換を行う。	実施中	現状の体制を維持
生活交通路線維持事業	圏域内を結ぶ路線バス等生活路線を維持するため、運行事業者等に対して支援する。	実施中	現状の体制を維持
青い森鉄道利用促進等事業	青森県、関係市町村及び事業者等の関係機関と連携して、青い森鉄道の各種利用促進活動に取り組む。	実施中	青い森鉄道下田駅～野辺地駅乗車人員 現状値(H27) 896,417 人 目標値(H29) 896,000 人
道路等のインフラ整備に関する要望	圏域内の市町村間を繋ぐ幹線道路等のインフラ整備に関する要望活動を圏域として一体的に行う。	実施中	要望活動実施回数 現状値(H28) 1 回 目標値(H29) 1 回以上
三沢空港振興会事業	三沢空港の利便性向上のため、発着路線の拡充など関係機関への要望活動やプロモーション活動等を実施する。	実施中	空港乗降客数 現状値(H27) 255,134 人 目標値(H29) 279,300 人

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
防災体制整備・地域防災計画等の情報共有等	圏域内の防災計画等の情報共有を行う。また、段階的に合同研修等を実施する。	実施中	防災訓練等の見学会回数
			現状値 1回/年 目標値 4回/年
			合同研修等の回数
			現状値 0回/年 目標値 1回/年
災害時の消防出動相互応援事業	消防応援協定に基づき災害出動を行う。	実施中	要請があった場合の出動率
			現状値 —（要請なし） 目標値 100%
消防指令業務共同運用等事業	上十三地域4消防本部消防通信指令事務協議会において、共同運用について検討し、消防指令業務の効率化を図る。	実施中	現状の体制を維持
簡易水道の共同利用	簡易水道の共同利用に関する研究・検討を行い、広域的な利用に向けた取組を推進する。	実施中	現状の体制を維持
消費生活相談事業	中心市が設置する消費生活センターに係る市町村の消費生活相談事務を集約する。	実施中	相談件数
			現状値 440件/年 目標値 730件/年
<b>（第2次で削除）</b>			
生活交通路線維持事業	圏域内を結ぶ路線バス等生活路線を維持するため、運行事業者等に対して支援する。また、公共交通ネットワーク会議において、持続可能な交通網の構築に向けた研究・検討を行う。	実施中	補助対象となる路線バス系統数
			現状値 34系統 目標値 30系統
			コミュニティバス利用者数
			現状値 283,939人/年 目標値 363,000人/年
二次交通の整備・充実事業	公共交通ネットワーク会議において、二次交通の利用環境の利用足人について、研究・検討を行う。	実施中	二次交通利用者数
			現状値 1,922人/年 目標値 3,700人/年
青い森鉄道利用促進等事業	関係機関と連携して、青い森鉄道の各種利用促進活動に取り組む。また、駅関連施設や周辺施設の整備を図る。	実施中	青い森鉄道下田駅～野辺地駅乗車人員
			現状値 691,861人/年 目標値 889,000人/年
道路等のインフラ整備に関する要望	圏域内の市町村間を繋ぐ幹線道路等のインフラ整備に関する要望活動を圏域として一体的に行う。	実施中	要望活動実施回数
			現状値 1回/年 目標値 1回以上/年
三沢空港振興会事業	三沢空港の利便性向上のため、発着路線の拡充など関係機関への要望活動やプロモーション活動等を実施する。	実施中	搭乗率
			現状値 39.5%/年 目標値 72.8%/年

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
公共施設の相互利用促進事業	圏域公共施設相互利用可能性調査を実施し、圏域公共施設相互利用一覧を作成する。また、情報の集約、提供、公開時期を検討する。	検討中	情報共有体制の構築
あおもりアートぐるっとパス事業	十和田市現代美術館、寺山修司記念館、鷹山宇一記念美術館において、3館共通パスポートを販売し、バスツアーを実施する。	実施中	実施期間中における来場者数 現状値(H27) 45,036人 目標値(H29) 47,300人
(第2次で追加)			
(第2次で追加)			
(第2次で追加)			
イベント交流の促進	圏域市町村広報誌に「ぐるっとNAVI～上十三・十和田湖広域定住自立圏情報～」を設け、イベント情報を発信する。	実施中	現状の体制を維持
職員研修交流事業	各市町村が実施する職員研修に、他の関係市町村の職員を受け入れる。	実施中	研修参加人数(広域参加) 現状値(H25-27平均)70人 目標値(H29)70人
職員人事交流事業	関係市町村において協議の上、必要に応じて職員の相互交流(派遣)を行う。	検討中	現状の体制を維持

事業名	これまでの取組の概要	進捗状況	KPI
公共施設の相互利用促進事業	公共施設の情報を共有するとともに、使用料や予約方法について段階的に調整し、相互利用を推進する。	実施中	相互利用率 現状値 15.2%/年 目標値 10.0%/年
(第2次で削除)			
美術館等入館促進事業	十和田市現代美術館、寺山修司記念館、鷹山宇一記念美術館において、企画展の周知を相互に行う。	実施中	入館者数 現状値 102,460人/年 目標値 185,000人/年
移住情報の発信・PR事業	圏域の魅力や生活に関する情報などを一体的に発信する。	実施中	市町村の移住相談窓口における相談件数 現状値 628件/年 目標値 138件/年より増加 市町村の支援施策を利用した圏域外からの移住者数 現状値 335人/年 目標値 110人/年より増加
結婚活動支援事業	結婚活動支援に連携して取り組み、圏域の成婚を促進する。	実施中	婚姻率 現状値 3.6 目標値 4.3より増加
イベント交流の促進	圏域市町村広報誌に「ぐるっとNAVI～上十三・十和田湖広域定住自立圏情報～」を設け、イベント情報を発信する。	実施中	各広報誌に掲載したイベント情報数 現状値 113件/年 目標値 600件/年
職員研修交流事業	各市町村が実施する職員研修に、他の関係市町村の職員を受け入れる。	実施中	研修参加人数(広域参加) 現状値 — (未実施) 目標値 70人/年
職員人事交流事業	関係市町村において協議の上、必要に応じて職員の相互交流(派遣)を行う。	検討中	現状の体制を維持

## **2. 圏域の課題**

今後も引き続き、関係市町村が連携して各種取組を実施するにあたり、以下の課題が挙げられます。

### **(1) 生活機能の強化**

地域医療の確保や福祉等の環境の整備・充実、圏域の住民が、将来にわたり安心して暮らすために必要不可欠な要素です。

安全・安心な医療を維持するには、医師の確保に努めながら、関係機関との機能分担・連携を深め、圏域の地域医療等の資源を活用していくことが重要です。

また、福祉環境の充実や、消費生活相談業務、防災・消防関連業務及びライフライン施設の整備等についても、サービスの水準を維持・向上するためには、関係機関の情報共有や広域連携による事業実施が必須となっており、今後も、より効果的・効率的な取組が求められています。

教育面では、情報化の進展等により学習環境が多様化する中、学習内容や学習機会の更なる充実が求められており、学習機会の情報提供の方法等についても検討が必要となっています。

産業振興面では、当圏域の豊富で多様な観光資源を圏域内外へ発信していくことが重要であり、また、誘客のみならず、地場製品のPRも含めた幅広い活動を今後も圏域が一体となって進めていく必要があります。

### **(2) 結びつきやネットワークの強化**

生活交通路線の確保及び空港や鉄道駅の二次交通の充実による交通利便性の向上は、暮らしやすさの向上と交流人口の増加へと繋がり、圏域を活性化させます。

このため、圏域内の公共交通体系の広域的な見直しや、公共交通機関の利用促進に向けた取組について、関係市町村間において更なる研究・検討が必要となっています。

また、高速交通体系の整備及び利用促進に向けた取組を今後も引き続き進める必要があります。

加えて、圏域外からの移住者の増加や圏域内における成婚の促進による定住人口の増加を図るため、各地域の魅力や特色、圏域の繋がりによるメリットを広くPRする等、移住や交流に関する取組を圏域全体で進めていくことが求められています。

圏域の体育・文化施設等については、圏域内外の住民が当該施設を効果的・効率的に利活用できるように、施設情報の提供方法等の検討が必要となっています。

### **(3) 圏域マネジメント能力の強化**

圏域市町村において行財政改革を進め、職員数を削減する中で、住民サービスの水準を維持・向上するためには、市町村職員の意識改革や人材育成が重要となります。これまでも職員研修の共同実施や人事交流について検討を進めてまいりましたが、今後も効果的な取組の検討が必要となっています。



## **2. 圏域の課題**

今後も引き続き、関係市町村が連携して各種取組を実施するにあたり、以下の課題が挙げられます。

### **(1) 生活機能の強化**

地域医療の確保や福祉等の環境の整備・充実は、圏域の住民が、将来にわたり安心して暮らすために必要不可欠な要素です。

安全・安心な医療を維持するには、医師の確保に努めながら、関係機関との機能分担・連携を深め、圏域の地域医療等の資源を活用していくことが重要です。

また、福祉環境の充実や、消費生活相談業務、防災・消防関連業務及びライフライン施設の整備等についても、サービスの水準を維持・向上するためには、関係機関の情報共有や広域連携による事業実施が必須となっており、今後も、より効果的・効率的な取組が求められています。

教育面では、情報化の進展等により学習環境が多様化する中、**学力の向上にむけ**学習内容や学習機会の更なる充実が求められています。

産業振興面では、圏域の豊富で多様な観光資源を圏域内外へ発信していくことが重要であり、また、誘客のみならず、**特産品**のPRも含めた幅広い活動を今後も圏域が一体となって進めていく必要があります。

### **(2) 結びつきやネットワークの強化**

生活交通路線の確保及び空港や鉄道駅の二次交通の充実による交通利便性の向上は、暮らしやすさと交流人口の増加へとつながり、圏域を活性化させます。

このため、圏域内の公共交通体系の広域的な見直しや、公共交通機関の利用促進に向けた取組について、関係市町村間において更なる研究・検討が必要となっています。

また、高速交通体系の整備及び利用促進に向けた取組を今後も**進めていく**必要があります。

加えて、圏域外からの移住者の増加や圏域内における成婚の促進による定住人口の増加を図るためには、各地域の魅力や特色、圏域のつながりによるメリットを広くPRするなど、移住や交流に関する取組についても、より一層連携を強化していくことが重要です。

さらに、ジェンダー平等の実現が求められている現代社会においては、**男女共同参画社会の形成に向けた取組を圏域全体で進めていくことが求められています。**

圏域の体育・文化施設等については、圏域内外の住民が当該施設を効果的・効率的に利活用できるように、施設情報の提供方法等の検討が必要となっています。

### **(3) 圏域マネジメント能力の強化**

圏域市町村において行財政改革を進め、職員数を削減する中で、住民サービスの水準を維持・向上するためには、市町村職員の意識改革や**デジタル化にも対応できる人材**の育成が重要となります。これまでも職員研修の共同実施や人事交流について検討を進めてまいりましたが、今後も効果的な取組の検討が必要となっています。





### (1) 基本認識

我が国が本格的な人口減少社会の到来を迎え、地方圏では、大幅な人口減少と急激な少子高齢化が進んでいます。また、グローバル化の進展や地域経済の低迷、地方分権の推進など、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しており、地域が知恵を出し、創意工夫をしながら自主的、自立的な地域づくりを進めることが強く求められています。

本圏域は、北部は青森県下北半島に、南部は秋田県北部に接し、東部は太平洋に接する非常に広大な圏域であり、豊かで多様な文化、自然、風土に恵まれています。一方、広大な圏域であるが故に、各地域が抱える課題も多種多様です。

美しい郷土に生まれ、生きる、人々の生活の営みを守っていくことは、圏域市町村に共通する使命であり、そのためには、連携・協力を深めながら、持続可能な地域社会を形成していくことが必要です。

## 第4章 圏域の将来像



### (1) 圏域の将来像

我が国が本格的な人口減少社会の到来を迎え、特に地方圏では、大幅な人口減少と急激な少子高齢化が進んでいます。また、デジタル化の進展や地域経済の低迷など、地方自治体を取り巻く環境はこれまで以上に大きく変化しており、将来にわたり地域住民の安全・安心な暮らしを守っていくためには、各地域が知恵を出し、創意工夫に努めながら、連携・協力を深め、持続可能な地域社会を形成していく必要があります。

このような認識のもと、本圏域では今後も継続して、地域医療や福祉をはじめとする暮らしに欠かすことのできない生活機能を圏域全体で確保し、住民が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる環境を整えるとともに、産業の活性化、圏域内外を結ぶネットワークを強化することにより、当圏域への人の流れの創出や人口減少の抑制に取り組み、魅力ある圏域づくりを目指します。

本圏域の伝統工芸品の一つに南部裂織があります。裂織は古い布を裂き、それらを用いて新しい布地を織る織物です。それぞれの布の色や模様の多種多様な組み合わせが、また新たなものを生み出しています。この南部裂織のように、圏域市町村が互いの多様な特色を認め合い、尊重しながら、1つの形に紡いでいく、そのような圏域であるべきと考え、それぞれが持つ地域資源を活用した個性ある地域づくりを基本とし、中心市の都市機能を共有するとともに、広大な圏域であるが故の特殊性・多様性を背景とする本圏域の強みを活かしながら課題解決を図り、より一層の発展を遂げることができるように努めます。

## **(2) 圏域の将来像**

このような認識のもと、定住自立圏を形成して、これまでも各種取組を着実に進めてまいりましたが、今後も継続して、地域医療や福祉を始めとする暮らしに欠かすことのできない生活機能を圏域総体として確保し、住民が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができ、また、圏域における暮らしやすさや魅力の質的向上、産業の活性化を図りながら、圏域内外を結ぶネットワークを強化することにより当圏域への人の流れの創出に努める等、大幅な人口減少の抑止を目指します。

この地域には、伝統工芸品の南部裂織があります。裂織は古い布を裂き、それらを用いて新しい布地を織る織物です。それぞれの布の色や模様が多様な組み合わせが、また新たなものを生み出していくのです。

この南部裂織のように、圏域市町村が互いの多様な特色を認め合い、尊重しながら、1つの形に紡いでいく、そのような圏域であるべきと考えます。

関係市町村それぞれの個性ある地域づくりを基本とし、その上で中心市の都市機能を共有し、各市町村が持つ地域資源を活用する等、広大な圏域であるが故の特殊性・多様性を背景とする当圏域の強みを活かしながら課題に当たり、本圏域が、より一層の発展を遂げることができるように努めてまいります。



## (2) SDGsの推進

SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標) は、平成 27 年 9 月に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて採択された国際社会共通の目標であり、先進国、開発途上国を問わず世界全体の経済、社会及び環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組として推進するもので、17 のゴールと 169 のターゲットが設定されています。

この取組は国際社会全体に広がりを見せており、日本においても SDGs を踏まえた地方創生を推進することとしています。

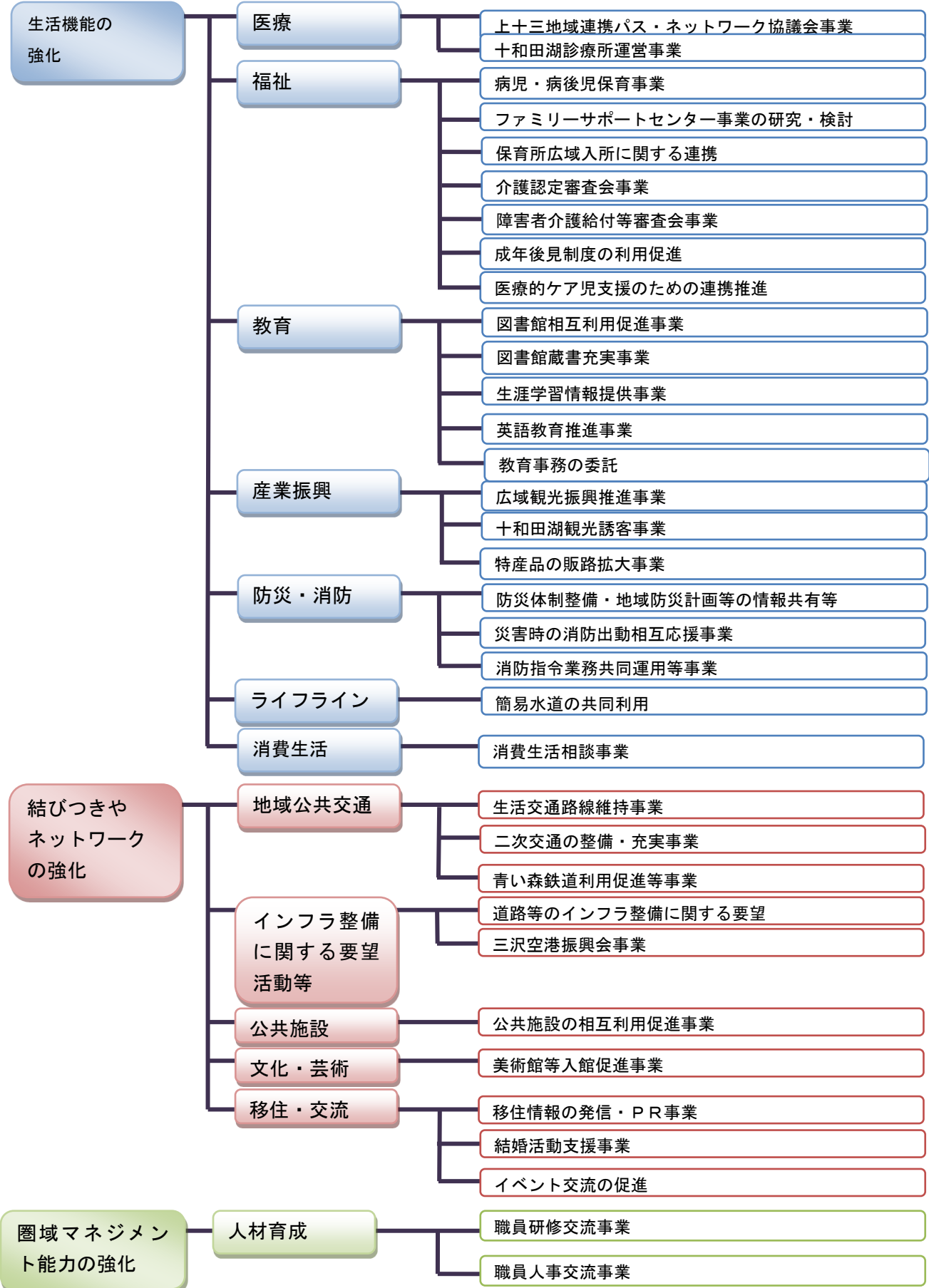
SDGs が目指す 17 のゴールは、国レベルで取り組むものが含まれ、本圏域の取組とは対象や規模が異なるものもありますが、目指すべき方向性は共通していることから、本圏域においても、持続可能な地域社会の形成に向けて、SDGs の視点を踏まえた取組を推進していきます。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 第5章 具体的取組

## 定住自立圏共生ビジョンの体系図

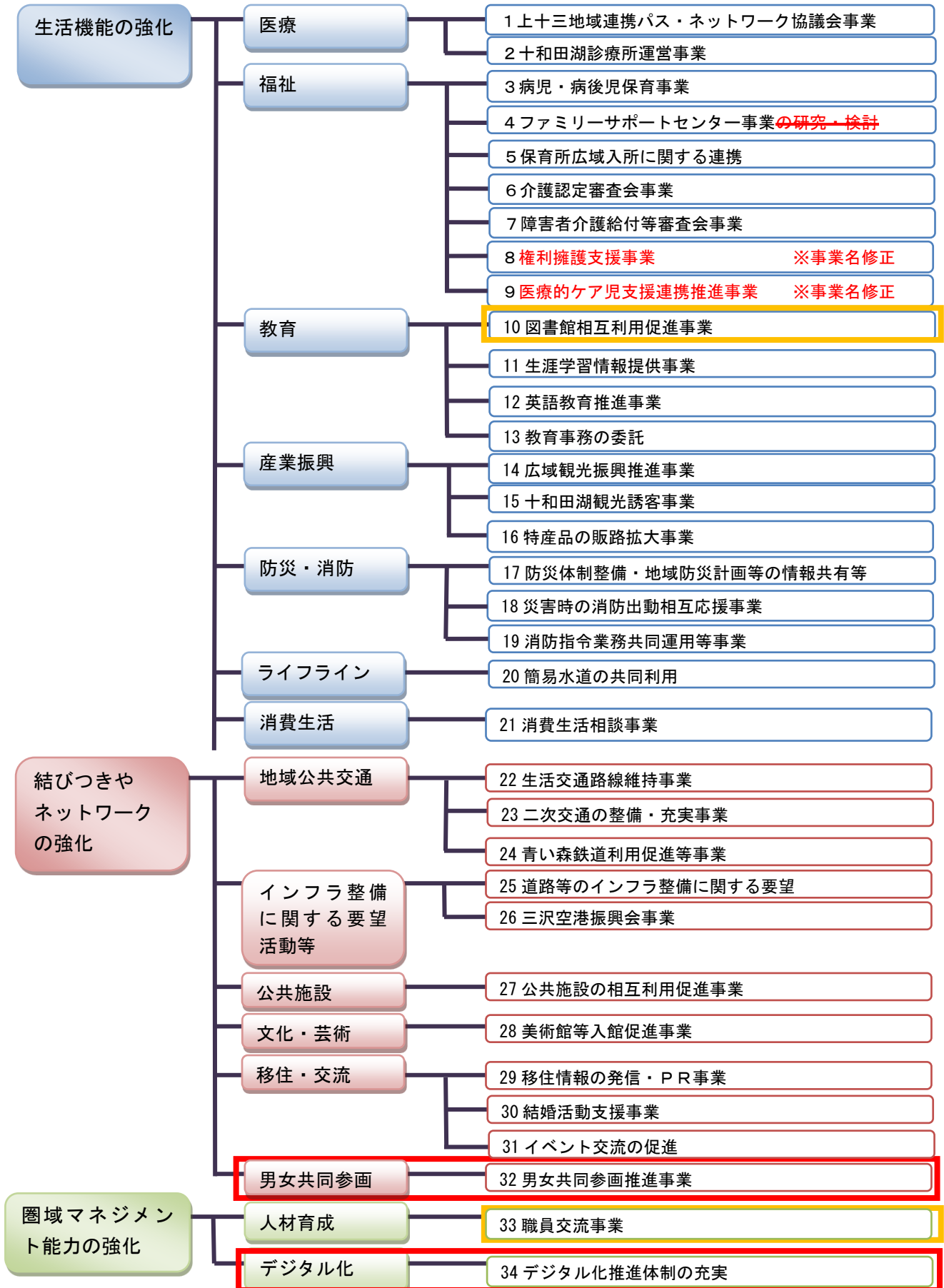


# 第5章 具体的取組

  新規

  統合

## 定住自立圏共生ビジョンの体系図



**(追加)**

## 具体的取組内容の見方

定住自立圏共生ビジョンでは、関係市町村が連携して人口定住に必要な生活機能を確保するため、集約化・ネットワーク化を目標に3つの視点からなる政策分野において、中心市と関係町村が「形成協定」を締結し、目標達成に向けて「具体的な事業」を展開しています。

### ①政策分野

集約化・ネットワーク化するための3つの分野があります。

#### 1. 生活機能の強化

##### (1) 医療

##### ① 地域医療ネットワークの充実

協定の内容	切れ目のない医療を適切に提供できるよう、救急医療や高度医療を担う中核病院と圏域内の各病院や診療所の役割分担と機能連携の強化、ネットワーク化を促進し、地域医療ネットワークの充実に図る。
-------	---

### ②形成協定

目標達成のために中心市と関係町村とで締結している協定を示しています。

#### 【具体的な事業】

事業名	上十三地域連携バス・ネットワーク協議会事業	事業番号	1			
関係市町村	十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村					
内容	地域包括ケア推進の一環として、医療資源を効果的に活用し、持続的な地域医療を確保するとともに、上十三地域連携バス・ネットワーク協議会を活用した患者紹介など病院間の機能分担や連携を強化し、地域医療ネットワークの充実に図る。					
効果	病気ごとに異なる医療機関の役割分担や診療情報の確実な伝達と連携を強化することで、急性期から回復期、維持期へと速やかに切れ目のない医療の適切な提供が可能となる。					
事業計画	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
事業費(千円)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	計
活用を想定する補助制度等						
特記事項						

### ③具体的な事業

定住自立圏の課題解決や機能向上を図るための取組を記載しています。

### ④事業費

関係市町村の合計額(見込み)を記載しています。事業費が明確でないものは「➡」を記載しています。

### ⑤重要業績評価指標(KPI)

事業の成果を客観的に把握し、評価・検討を行うための指標を定めています。

#### 【取組の成果】

重要業績評価指標(KPI)	指標
	現状の体制を維持する

※事業の維持等が成果となるものは、現状値・目標値を記載していません。